

2019 年度

教育概要

— 教育理念及び学科指導要綱 —

勤医協札幌看護専門学校

看護学科 回生 クラス 氏名

目次

1. 教育理念	3
2. カリキュラム編成の基本となる概念	4
3. 教育課程の構造図(カリキュラムデザイン)	5
4. 学年別到達目標	7
5. 授業科目と講義概要	
◇ 基礎分野	8
◇ 専門基礎分野	23
◇ 専門分野 I	39
➤ 基礎看護学	40
◇ 専門分野 II	70
➤ 成人看護学	71
➤ 老年看護学	77
➤ 小児看護学	81
➤ 母性看護学	85
➤ 精神看護学	89
◇ 統合分野	100
➤ 在宅看護論	101
➤ 看護の統合と実践	105

教育理念

本校は総合的な保健・医療・福祉の視点から看護師として必要な基礎的知識・技術・素養を習得させるとともに、平和で豊かな社会建設の形成者として貢献出来る民主的で人間性豊かな看護の専門家を育成するために、日本国憲法の理念に基づき教育を行う。

教育目的

本校は看護師として必要な知識および技術を習得させるとともに、生命と人権を尊重できる豊かな人間性を養い地域医療の発展充実に寄与し、広く社会に貢献しうる人材を育成することを目的とする。

教育目標

1. 患者や地域住民の立場に立つ看護の視点を養う。
2. 人々の健康上の課題に対応できる科学的根拠と安全性を基盤とする知識、技術、態度を養う。
3. 看護の科学性を認識し、その専門分野の進歩に学び、自己を向上出来る能力を養う。
4. 看護職に誇りと責任を持ち、他職種と連帯、協働して自主的に行動できる豊かな教養と思いやりを持った人格を育てる。

目指す看護師像

1. 世の中の動きに関心を持ち、視野を広げ、誰もが人間として大切にされる平和な社会を願う心が育っている。
2. 仲間や患者さんに関心を寄せ、共感できる優しく豊かな感性を持ち、看護師としてふさわしい行動がとれる。
3. 地域の方々や患者さんと力を合わせて、安心して住み続けられる街づくりを進める資質が育っている。
4. 看護師としての誇りと責任を持ち、人権を尊重する安全な看護を提供できる基礎が育っている。
5. 事実をとらえ、物事の関連と、筋道を立てて考える基礎力が育っている。
6. 歴史と科学の発展に学び、生命のすばらしさと大切さが認識できている。
7. 「分かる喜び」を大切にし、自ら学ぶ学習態度が身についている。
8. 発展していく医療や看護に目を向け、専門職として学び続ける姿勢を有している。
9. 保健・医療・福祉の仲間と連帯し、看護の専門家として実践する基礎力を身につけている。
10. 一人一人が自分の意見を持ち表現することを大切にして、ともに学びあう仲間づくりを希求する。

カリキュラム編成の基本となる概念

人間

- 人間は基本的人権を有し、人間としての生活—経済活動(生産労働)を基盤にし、地域活動、主権者としての活動、その上に芸術を楽しみ、余暇を楽しみ、自分の要求や思想を表現し、交流していく現実の生活過程を営む社会的存在である。
- 人間は社会を構成し環境に働きかけ、つくり変え、制限を乗り越え、新たに生きる力を獲得し発達する存在である。
- 人間は歴史的に進化し、発達してきた 60 兆の細胞からなり各器官が連携し心身が総合して生命活動を営んでいる存在である。

健康

- 人間の健康は、所与の制限(外的=環境、内的=自己自身)に対して、受動的に適応するのではなく、能動的、意識的に変革することが、人間の生命活動の質的特徴である。
- 人間の生命活動に固有の4つの活動—自然を変える労働、社会を変える社会的実践、そして自分自身を変えていく自己変革・発達、そして人生を楽しみ、人類の生み出した良き物を享受するというような人間独自、人間固有の諸活動を行えるような精神的、身体的、社会的な状態である。
- 人間の健康の量的指標は健康度であり、健康度は歴史的、社会的(労働や生活)に規定された度合いで深く関わっており、構造的把握が求められる。
- 憲法25条で示されるように「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有し、国は全ての生活部面について社会福祉、社会保障および公衆衛生の向上に努めなければならない。」ことを保障されている。

看護

- 対象の基本的人権を護ることを基盤にし、対象の生きようとする生命活動と社会背景を総合的にとらえ、民主的に組織された医療チームとともに予防から社会復帰(リハビリ)までを応援していく活動である。
- 看護は対象の日々刻々の変化を観察し病態を科学的にとらえ、その人の生活背景(労働と暮らし)との関係や生活史をとらえ治療方針に沿って看護方針を立案、計画し、目的意識的に展開していく過程である。

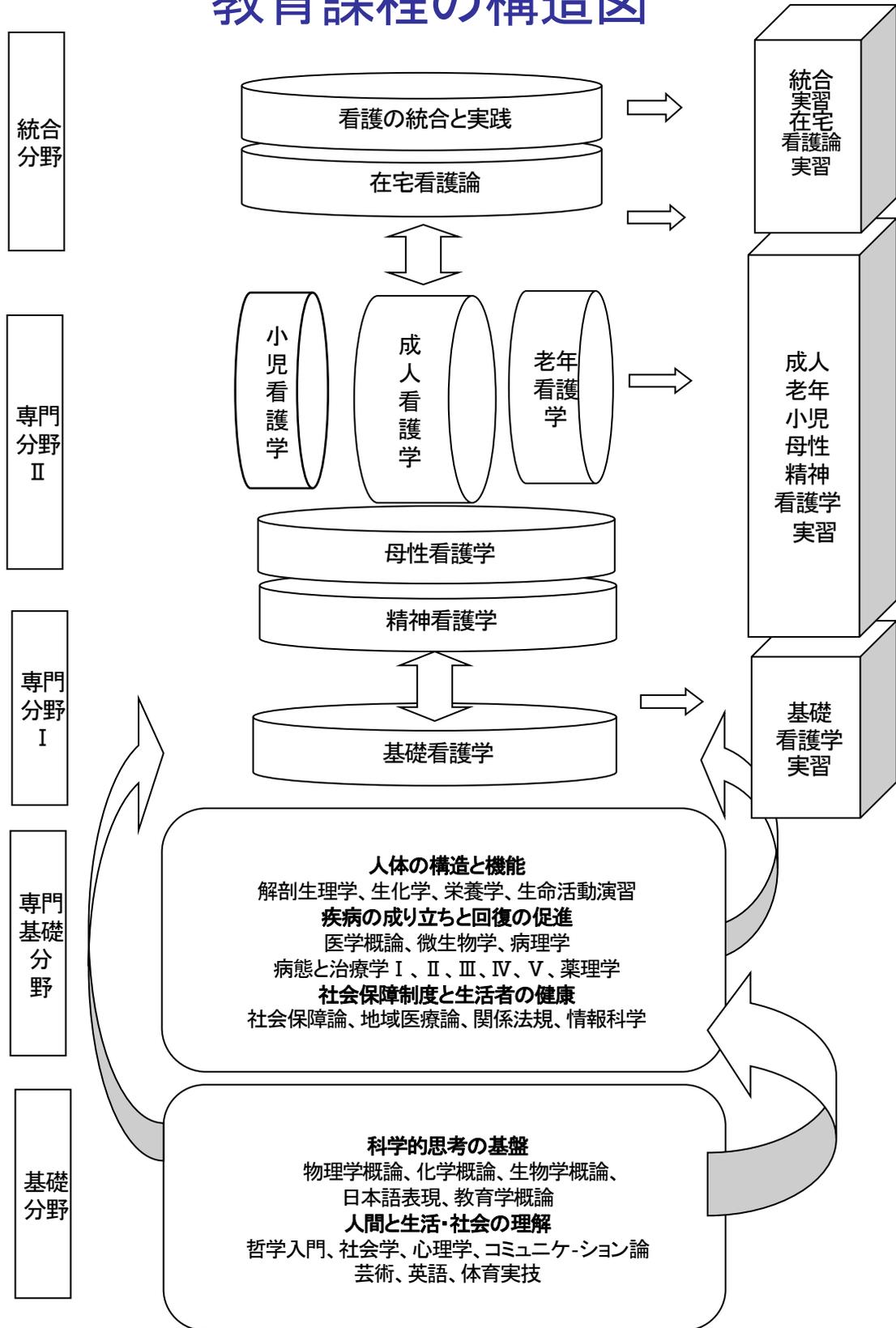
社会

- 人間の社会は経済構造を土台として、政治、法律、環境、文化などを形づくっており、歴史的法則を持って発展してきた。
- 人間は生存のためのあらゆる努力の積み重ねのなかで、基本的人権や国民主権の政治制度、民主主義の政治制度、民主主義の確立・充実を目指してきた。
- 社会は人間が主体となって働きかけ変革していく中で発展する。平和と民主主義は人間社会の発展にとって不可欠のものであり、人類共通の普遍的価値である。

学習

- 人間は誰もが発達する可能性を持っており、等しく教育を受ける権利を有している。教育基本法に示されている平和、民主主義、人権を基本として、主体者として勤労と責任を重んじ自主的精神に満ちた心身ともに健康な国民の育成のための教育を目指す。
- 学生は教育の主人公として、学びあう喜びを学習を通じて獲得するとともに、自治を作り出し体験し、集団に信頼を持ち、共同して学びを積み重ねる。
- 「わかる」喜びを重視し主体的、能動的学び方を仲間とともに発展させ、現代の社会問題などに「歴史の主体者」として集団的に立ち向かえるように教授する。

教育課程の構造図



各分野の考え方

教育課程は基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野の5分野で構成される。基礎分野は、幅広いものの見方、考え方を身につけるとともに、自己を含めて人間を理解しコミュニケーション能力を高め、知性と感性豊かな人間として成長し、対象の立場に立つ看護を学ぶ土台を構築していく分野として位置づける。

専門基礎分野は、看護学を学ぶ上で基礎となる分野として、人間の身体の構造や生命活動と、疾患の病態生理や障害について学ぶことによって、臨床における判断力を養い、根拠を持った看護を実践する基盤を作る分野である。

また対象を生活者としてとらえる視点を養うとともに、保健医療福祉の視点から看護の役割を考える基礎を培う分野として位置づける。

専門分野Ⅰ(基礎看護学)は、看護の概念や役割を学ぶとともに、対象と信頼関係を築き、対象の状況に応じた看護を実践するために、基礎看護技術、看護過程を学び、専門分野Ⅱや統合分野の学習の基礎となる分野として位置づける。

専門分野Ⅱは、「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」の5つの看護学で構成される。

人間の生涯を通した各期における特徴と健康問題を明らかにし、その多様なニーズを踏まえながら、対象に応じた看護実践ができる基礎的能力を育成する分野として位置づける。

発達課題の理解とともに各期における心の健康に関する理解の必要性から精神看護学を、次代を担う生命を生み育てていくという視点から母性看護学を、小児、成人、老年期の看護学の土台部分に位置づけた。

統合分野は、既習の知識、技術と対象を尊重し、主体的に学習する態度を統合し対象の個別性に応じた看護を実践する能力と、保健医療福祉の視点で他職種と協働しながら看護マネジメント能力を発揮し対象に必要な看護を統合して実践する能力を養い看護実践能力を向上させる分野と位置づける。

「在宅看護論」では、対象が在宅でその人らしく、安心して療養を続けることを支援するための基礎的な看護技術を身につけ、保健医療福祉の協働の中で看護師に求められる役割を学ぶ。

「看護の統合と実践」では、看護管理および、保健医療福祉における他職種との連携の実際、災害時の看護、国際的な視点から、広く看護の役割を学ぶ。

また安全な医療、看護の提供のための、判断力、実践力、臨床実践能力の向上をはかるとともに、生涯にわたって看護師として学び続ける研究的態度を養う。

学年別到達目標

	<p>基本的人権を有する対象としてとらえる患者観・生命観・医療観を養う</p>	<p>看護の基礎的知識・技術の習得</p>	<p>自己の成長と集団化の発達</p>
1学年	<p>① 対象は基本的人権を有し、発達し、暮らしている存在であることを理解する。 ② 対象は健康の回復を願って闘病している人としてとらえ、医療、看護への期待を学ぶ</p>	<p>① 医学・看護学の基礎的知識を習得する。 ② 基礎的看護技術を安全・安楽に留意して実践できる基礎を習得する。 ③ 対象と信頼関係を築く基礎的な技術としてのコミュニケーション技術を習得する。 ④ 患者の病態について指導を受け、観察した事実を疾患学習とつないでとらえられる。</p>	<p>① 生活体験を広げ、看護の学習につなげることが出来る。 ② ペア、グループで学習目標を達成して行くために協力し学習できる。 ③ 学びの主体者として成長する。</p>
2学年	<p>① 生命活動の探求を通して人間の持っている健康に生きようとする力をとらえることができる。 ② 闘病している対象の医療に関する願いや期待をとらえ、その期待に応える医療・看護のあり方について問題意識を持つことが出来る。</p>	<p>① 看護の専門的知識を習得する。 ② 対象の病態をとらえ、指導を受けて看護計画を立案し、看護展開することができる。 ③ 対象と信頼関係を築く基本的な技術としてのコミュニケーション技術を身につける。 ④ 治療に協力する看護技術を指導を受け安全・安楽に実施し、振り返ることができる。</p>	<p>① 看護への志向を明確にすることが出来る。 ② 集団の中での自己の役割を自覚し、学習目標達成のための行動がとれ、仲間の学びからも学ぶことが出来る。 ③ 集団学習を通して自分の考えや意見が述べられる。</p>
3学年	<p>① 対象を健康と労働・暮らしとの関わりでとらえ、医療保障や福祉の実態について学び、社会保障の問題意識を発展させ、基本的人権を護る医療、看護の役割を理解する。</p>	<p>① 対象の発達過程の特徴をふまえ、病態を科学的に明らかにし生活史、闘病史から患者の願いをとらえ看護展開することができる。 ② 治療に協力する看護技術を安全に実施することができ、安全な技術の獲得を発展させるために振り返りができる。</p>	<p>① リーダー・メンバーの役割を認識し、民主的な医療チームの一員としての基礎的な力をみにつける。 ② 看護師としての自覚を持った行動がとれる。 ③ 問題意識を持ってゼミに参加し、仲間の学びからも学びとることができる。</p>

基礎分野

基礎分野 14 単位

基礎分野は、専門基礎分野、専門分野の基礎として幅広いものの見方、考え方を身につけるとともに、自己を含めて人間を深く理解し、知性と、感性豊かな人間として成長し看護を学ぶ土台を構築する分野として位置づける。

<科学的思考の基盤>

人間が長い歴史の中で進化させてきた生命活動を科学的にとらえる事をねらいとして、化学概論、生物学概論、物理概論を科目とする。

また、客観的に事実をとらえ、論理的思考の基礎を学ぶために哲学、日本語表現(論理的思考)を科目とする。

<人間と生活・社会の理解>

社会学において、社会の歴史的発展と、社会を構成する人間の生活について、教育学では生涯発達し続ける人間をとらえる視点を学び、社会的存在としての人間の理解を深める。

心理学は、人間関係における自己理解、他者理解の重要性と人間の心理的活動や行動を理解し人間についての理解するための基礎的理論を学ぶ。

また、コミュニケーション論は、看護においては適切な対人関係を築くために、人間に対する理解に基づいたコミュニケーション技術を習得させることを目的として、コミュニケーションの基礎理論の理解とともに、自己の表現能力を高める視点や技法を内容とする。

また、多様な価値観を受け入れる感性と、人間性を養うことをねらいとして英語 I・II、体育 I・II、芸術を科目とする。

科目名	単位数	授業時期	担当講師
哲学入門	1単位 30時間	3年前期	非常勤講師 三浦 保紀
《学習目標》			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学の歴史を通して人間と哲学の関わりを学ぶ 2. 「私」の存在とは、どのようなものか哲学する 3. 客観的事実とはいかなるものか哲学する 			
授業内容			授業方法
<p>物事をどうとらえ、どう考えるのかは、古代から人間が悩み苦しんできたテーマである。古代人はそれを神話や信仰にもとめ、古代ギリシャでは万物が何でできあがっているのかを模索していた。人間社会の発展と科学の研究が進むにつれ、いままでの常識を覆す考えが発展してきた。例えば地動説がそうである。この模索は今現在も続いている。</p> <p>医療や看護の現場でも、問題の本質を根源に遡って探求することが求められている。この点で、哲学はあらゆる科学を方向づける学問といってもよい。</p> <p>授業では、哲学史のおおよその流れをつかみ、とりわけ観念論と唯物論の違いを明確にしたい。</p> <p>また、ただ単に座学に終るだけでなく、アップデートな課題もとりあげ、ディスカッション形式の授業を行うこともある。</p> <p>やがて社会人となるための最低限の知識や素養についても身につけたい。</p>			<p>講義を中心にすすめるが、プレゼンテーション、グループワークを取り入れる。</p>
《テキスト》			
適宜 資料配布			
《評価》			
<p>レポート(80%)及び出席、討議への参加状況(20%)にて総合評価する。</p> <p>60点以上を合格とする</p>			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
物理学概論	1単位 15時間	1年前期	非常勤講師 森山 隆則
《学習目標》			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 科学的な物の見方考え方を涵養する。 2. 基礎看護技術の基礎理論を理解する。 3. 様々な単位・濃度の考え方及び換算方法を修得する。 4. 看護師が取り扱う医療機器等の基礎理論と安全対策を修得する。 			
授業内容			授業方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・看護に不可欠な様々な単位と換算方法について ～看護になぜ物理学が必要なの？～ 2. 体位変換を容易にする物理学的基礎理論について 3. 温度の定義、検温、冷電法・温電法の基礎理論について 4. 看護に必要な電気理論の基礎について 5. 血圧の単位と大気圧の関連性について 6. 酸素ポンベの取り扱いとガスの基礎理論について 7. 点滴の基礎理論について 8. 比重の考え方と血液・尿の比重について 9. 加圧蒸気滅菌装置(オートクレーブ)の基礎と安全性について 10. pHの定義と血液・尿のpHについて 11. 溶液の様々な濃度の表示方法と換算方法について 12. 浸透圧の考え方と血液透析の基礎理論について 13. 電磁波の種類と医療への応用について 14. 放射線の特性と医療への応用について 15. 看護に必要な物理学のまとめ 			講義と演習を組み合わせた形式で双方向的授業を行う。
《テキスト》			
テキスト:教員の配布資料			
《評価》			
認定は筆記試験にて行う			
60点以上を合格とする			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
生物学概論	1単位 30時間	1年前期	非常勤講師 後藤 言行
《学習目標》			
1. “いのち”に対するしっかりとした自らの意見と行動の指針を確立する 2. 医学・看護学の基礎を支える教科として重視されている生物学にふさわしい、医学・看護学の現場で活かせる最新の科学的知見を身に着ける			
授業内容		講義方法	
《 授 業 内 容 》 年間を通したテーマ：“いのち”とは何なのか その“いのち”とどう向き合うのか I. あなた自身、およびあなたが接する(仕事の対象とする)「ヒト→人間(生物学的なHomo sapiens から社会的な存在としての“人間”)とはどのような存在なのか」を深い所で理解する 1. 生命はどのようにして生まれたのか＝宇宙の生成と化学的進化 2. 生命の発生＝地球上での生物的進化 3. 原始的な生命体(生物)からヒトに至る進化 4. あなた自身や、一人の患者の空間的・時間的存在をしっかりとらえる II. 生物の特徴 1. 自己と非自己の間の境界・生体膜の働き 能動輸送の意味 2. 基本単位としての細胞 単細胞動物と多細胞動物の基本的な違い 3. 物質交代と成長の関わり 4. 生殖・遺伝 有性生殖と進化 III. ヒトのからだの基礎知識(“各器官系”相互の関連と協調を重視して) 1. 「外界に対しての自己のバリア」と刺激の受容 感覚器官 2. 消化器系と吸収系、循環器系、排出器系の協調 3. 骨格と筋肉、神経系との協調と連係 4. エネルギー代謝 ATP 同化と異化の意味 5. ヒトの遺伝と発生 (II-4. を深める形で) 6. 個体の調節(ホメオスタシス) 1. 神経系 7. 個体の調節(ホメオスタシス) 2. 内分泌系 IV. 「環境問題」と、ヒトを含む地球の未来について		基本的には講義形式で行う レポートを5回課す レポートで考えて欲しいと思っている事柄は ・宇宙 137 億年の歴史は我々(ヒトを中心に、他の生命)の体とどうつながるのか ・我々の存在は偶然なのか必然なのか。“偶然と必然”の区別は何か ・「同質」と「異質」をどうとらえるのか ・「優性」思想の本質は何か。肯定するのか否定するのか。いずれの場合でも、自分はどのように主張するのか ・ここ2～3年に起こった社会問題から考えようなど	
《 学 習 課 題 》			
1. 医学・看護学の基本を支える学問としての生物学の重要性を認識してもらおう 2. 他の自然科学の分野、医学の分野との関連性を強く認識してもらおう			
《テキスト》			
系統看護学講座 基礎分野「生物学」(医学書院)			
《評 価》			
筆記試験で3/4(75点)相当、レポートで1/4(25点)相当 の割合の総計で評価する 60 点以上を合格とする			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
化学概論	1 単位 15 時間	1年前期	非常勤講師 三好 敬一
《学習目標》			
1. 物質の化学的性質や化学反応の基礎を学ぶ。 2. 専門基礎分野の生化学の基礎としても位置付ける。 3. 医療と関連した事項の化学的理解を深める。			
授業内容		授業方法	
① 原子(電子配置・イオン) ② 化学結合(イオン結合、共有結合、金属結合) ③ 原子量・分子量・物質質量 ④ 気体(大気圧・温度) ⑤ 溶液(溶けるとは、溶液の濃度) ⑥ 溶液の性質(沸点上昇、凝固点降下、浸透圧) ⑦ 酸と塩基([H ⁺]、pH、中和、緩衝溶液) ⑧ コロイド、酸化還元		講義形式で進める ① 教科書、サブテキスト、スライド(パワーポイント)を使用する。 ② 初回にアンケートを行い、化学履修状況や関心の程度を把握する。 ③ 教授内容に関連した問題を用意し、理解を深める。	
《テキスト》			
系統看護学講座 化学 医学書院			
《評価》			
認定は筆記試験にて行う 60 点以上を合格とする			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
心理学	1単位 30時間	1年前期	非常勤講師 小幡 直弘
《学習目標》 心理学についての基礎知識を身につけ、自分自身の理解だけでなく、他者、とりわけ患者の気持ちの理解ができるようにする。幅広い観点から人の心理、行動などの諸現象をとらえ実際の医療・看護場面において役立つような柔軟な思考力・行動力を身につける。			
授業内容		授業方法	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス～心理学のあゆみ 2. 感覚・知覚の心理 3. 記憶のしくみ 4. 思考・問題解決 5. 意思決定の心理 6. 学習と行動療法 7. 感情と動機づけ 8. 性格と知能 9. 発達 10. 対人認知 11. 社会・集団の心理 12. 説得とコミュニケーション 13. 健康・ストレス 14. 心理アセスメント・カウンセリング 15. 行動と人間理解 		<p>講義形式で進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回パワーポイントを使用して授業をします。 ・あわせてプリントも配布します。 ・教科書は特に指定しません。 	
《テキスト》 授業時資料配付			
《評価》 認定はレポートにて行う 60点以上を合格とする			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
コミュニケーション論	1単位 15時間	1年後期	非常勤講師 小幡 直弘
<p>《学習目標》</p> <p>人間関係におけるコミュニケーションの過程や構造、意義を理解し、よりよいコミュニケーションをとるためにはどのような知識やスキルが必要かを考える。</p> <p>体験型演習を通じて、医療・看護場面において効果的なコミュニケーション・スキルを身につける。</p>			
授業内容		授業方法	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス～非言語コミュニケーション 2. 集団内でのコミュニケーション 3. 一方向・双方向のコミュニケーション 4. 態度としぐさのコミュニケーション 5. コミュニケーションによる他者理解と問題解決 6. コミュニケーションにおける情報の選択 7. アサーティブ・コミュニケーション 8. より良いコミュニケーションのために 		<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式で進める ・毎回パワーポイントを使用して授業をします。 ・あわせてプリントも配布します。 ・教科書は特に指定しません。 ・体験演習を取り入れながら、討議形式で進めます。 	
<p>《テキスト》</p> <p>授業時資料配付</p>			
<p>《評価》</p> <p>毎回のレポート(振り返りシート)にて評価する。</p> <p>60点以上を合格とする</p>			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
教育学概論	1単位 30時間	3年前期	非常勤講師 谷口 知弘
<p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 近現代日本の教育の理念の歴史を学ぶことを通して、国民の教育権と教育の自由の意義を理解し、国民の権利としての教育の保障の観点から、教育の現状と課題を自己一身上の問題として捉え、考察することができる。 2. 地域住民や労働者等の学習活動を学ぶことを通して、国民の学習権の意義を理解する。 3. 人権にかかわる社会的事象に関心を持ち、一主権者として、今の自分から考えることができる。 			
授業内容			授業方法
<p>I ガイダンス</p> <p>II 〈教育〉の古層</p> <p>III 子どもの発見と発達観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間のライフサイクルと生涯発達 ・発達と学習と教育 ・近代学校空間の編成と学校体罰 <p>IV 教育権・学習権の歩み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法＝教育勅語体制 ・日本国憲法＝教育基本法体制 ・国民の教育権論の到達点と課題 ・戦後日本の教育政策と教育基本法改正 <p>V 生涯にわたる発達と学習と教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の専門性と教員文化 ・教師の専門性と専門職性 ・教師の労働環境と教員文化 ・地域における学習 ・公害教育と地域学習 ・社会教育と健康学習 <ul style="list-style-type: none"> ・労働者の学習と教育 ・入院で通学できない子どもの学習と教育 			<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には講義形式で進める。 ・必要に応じて、近くの者との意見交流を求めることがある。 ・次回以降の授業において使用する資料を事前に配布して、あらかじめ読んでおいてもらうことがある。 ・適宜、映像資料を視聴する。
<p>《テキスト》</p> <p>指定しない。毎回資料を配布する。</p> <p>《参考文献》</p> <p>木村元編『系統看護学講座 基礎分野 教育学(第7版)』(医学書院、2015年)</p> <p>その他の参考文献については、授業時に適宜紹介する。</p>			
<p>《評価》</p> <p>レポート課題(55%)、授業への取り組み(45%)により、総合的に評価する。</p> <p>60点以上を合格とする</p>			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
社会学	1単位 30時間	1年前期	非常勤講師 三浦 保紀
<p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の現象を深くとらえる素養を身につけること。 2. 憲法をはじめとする日本の諸制度を根源的に理解する。 3. 労働法や社会保障法の概略を学ぶ。 4. 的確に分析し表現できる能力を養う。 5. レポート、プレゼンテーション能力を養う。 			
授業内容			講義方法
<p>看護を学ぶに当たり、社会のしくみを理解し、どう考えるかは、基礎的な素養にかかわる問題である。この授業では、高校時代の知識としての社会学ではなく、患者の背景や疾病の根源に何があるのかをさぐる作業をおこないたい。そのうえで、日本にあるべき医療と福祉のあり方を探る。そのために今年度の社会学では、以下の内容にそって授業をすすめる。</p> <p>I 憲法を学ぶ 日本国憲法を、医療や看護の面からどのように考えるかを問い直す。看護学校の1年次ということもあり、基本的人権や生存権に重点をおくほか、憲法を貫いている原理を学ぶ。</p> <p>II 社会の法則を学ぶ 社会のしくみ、現代日本の矛盾とその根源、平和・民主主義と医療・福祉の関連、「その人らしく」生きることとは何か、を学ぶ。自分探しの旅にもなる。</p>			<p>講義形式で進める。</p> <p>講義の後、課題レポート提出する。</p>
<p>《テキスト》</p> <p>新装版 日本国憲法（講談社学術文庫）</p>			
<p>《評価》</p> <p>認定はレポート(50%)及び筆記試験(50%)にて行う 60点以上を合格とする</p>			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
英 語 I	1単位 30 時間	1年前期	非常勤講師 遠藤 愛
<p>《学習目標》 「読む・書く・聞く・話す」の4技能を学習し、医療現場等で実践的に使える英語力を養う</p>			
授業内容		授業方法	
<p>以下の内容で授業を進めます。</p> <p>① 医療・看護をテーマにしたテキストを使用し、専門的な語彙・表現を学びます。</p> <p>② ①を応用し、医療現場で生かすことの出来る会話表現を学びます。</p> <p>③ 看護がスムーズに行えるよう、文化の違いを学びます。</p> <p>*上記①～③により、実践にむけてOutput Skill (speaking, writing)、 Input Skill(listening, reading)、Communication Skill を高めます。</p>		<p>テキストに添って講義形式で授業を行います。</p>	
<p>《学習課題》 指摘する学習語彙・実践的な表現を覚えること。 辞書を持参してください。</p>			
<p>《テキスト》 ホスピタル・イングリッシュ Vital Signs Essential English for Healthcare Professionals (南雲堂)</p>			
<p>《評 価》 認定は筆記試験にて行う 60 点以上を合格とする</p>			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
英 語 II	1単位 30 時間	3年前期	非常勤講師 遠藤 愛
《学習目標》 「読む・書く・聞く・話す」の4技能を学習し、医療現場等で実践的に使える英語力を養う			
授業内容		授業方法	
以下の内容で授業を進めます。 ① 医療・看護をテーマにしたテキストに使用し、専門的な語彙・表現を学びます。 ② ①を応用し、医療現場で生かすことの出来る会話表現を学びます。 ③ 医療現場に関する長文読解を行い、知識を深めます。 * 上記①～③により、実践にむけてOutput Skill (speaking, writing)、 Input Skill(listening, reading)、Communication Skill をより深めます。		テキストに添って講義形式で授業を行います。	
《学習課題》 指摘する学習語彙・実践的な表現を覚えること。 辞書を持参してください。			
《テキスト》 『 First Aid! English for Nursing 』			
《評 価》 認定は筆記試験にて行う 60 点以上を合格とする			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
体育実技 I	1単位 30 時間	1 年前期	非常勤講師 李 鋭利
<p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ競技そのものの本質を理解し、バレーボールや卓球競技において、その競技に当てはまる技術や戦術(合理的・合目的・経済的な動き)を認識・習得する。 2. ゲームの状況を確実に捉え、それに対する技術や戦術を認識・理解し、ゲームができるようになること。 			
授業内容		授業方法	
<ol style="list-style-type: none"> 1. バレーボールにおいては、各個別技術すなわち、アンダーハンドパス、オーバーハンドパス技術を認識・習得することを前提にし、サーブ・トス・スパイク・ブロックの技術を認識・習得させゲームを行い、ゲームの中で各個別技術・戦術を洗練する。 2. 卓球においては、各個別技術すなわち、サーブ、サーブレシーブ(無回転サーブ、回転サーブ及びそれらに対応したサーブレシーブ)、ラリー、スマッシュを理解・習得する。 そしてゲームの状況を確実に捉え相手の打法に応じた行動＝対応技術を習得し、ゲームができるようにする。 		<p>実技指導を行う</p> <p>授業方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 師範法 2. 説明法 3. 練習法 <p>練習方法:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一斉練習 2. 個別指導 	
<p>《教育内容と教材》</p> <p>本授業においては、学習目標を達成するために、攻撃・守備の各個別技術・戦術を理解・習得できる内容を選択し、教材を構成する。</p>			
<p>《評価》</p> <p>各種目の個別技術や戦術において、授業内容の 60%以上を達成した場合、認定とする。 60 点以上を合格とする</p>			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
体育実技Ⅱ	1単位 15時間	2年前期	非常勤講師 李 鋭利
<p>《学習目標》</p> <p>1年の学習に基づき、バレーボールや卓球競技において、より一層深くその競技(ゲームの状況)を理解・把握し、確実にそれに対する適応できる個別技術や個人戦術や集団戦術を活用できるように、より質の高いゲームができるようになることにある。</p>			
授業内容			授業方法
<p>1年次の1年間の授業を通して基本的な技術や戦術の把握度合いに基づき、バレーボールや卓球のゲームを行い、「質の高いゲーム」ができるようにする。</p>			<p>実技指導を行う</p> <p>授業方法:</p> <p>1. 説明法</p> <p>練習方法:</p> <p>1. 一斉練習</p> <p>2. 個別指導</p>
<p>《教育内容と教材》</p> <p>本授業においては、学習目標を達成するために、攻撃・守備の各個別技術・戦術を理解・習得できる内容を選択し、教材を構成する。</p>			
<p>《評価》</p> <p>各種目の個別技術や戦術において、授業内容の60%以上を達成した場合、認定とする。</p> <p>60点以上を合格とする</p>			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
芸術	1単位 15時間	1年次	非常勤講師 村場 辰彦
《学習目標》 1. 音楽を通して自己の内面の表現、喜びを集団で分かち合う。 2. 豊かな情操と感性を磨く			
授業内容			授業方法
楽しんで音楽することにより、人間として生きるための豊かな感性を養う。 1. 音楽に触れる <ul style="list-style-type: none"> ・ 発声練習 ・ 校歌の練習 ・ 2曲を選択し、合唱を行う 2. 芸術を鑑賞する ミュージカル鑑賞を行う			音楽の授業として、校歌および、クラスで2曲を選択し合唱する。 1年後期の時期に上演予定の演目から1つを選択し鑑賞する。 観賞後の感想文を提出する。
《学習課題》 皆と気持ちを合わせて音楽できるようになること			
《評価》 授業・鑑賞会の出席状況(70%)、芸術鑑賞の感想文(30%)にて総合評価する。 (60点以上を合格とする)			

専門基礎分野

専門基礎分野 24 単位

専門基礎分野は、看護学を学ぶ上で基礎となる分野である。

基礎科目の学習と関連させながら人間の生命活動をとらえ、専門的な知識の習得や臨地実習とも統合して、看護の必要性の判断、根拠を持った看護を实践する基盤を作る。また対象を社会的視点からとらえるとともに、保健医療福祉の視点から看護の役割を考える基礎を培う分野として位置づける。

人体の機能と構造を系統的に理解するための解剖生理学を構造化した。また、歴史的に進化してきた人間の生命活動を学び、生命観を深めるとともに、人体を系統立てて理解し、健康、疾病、障害に対する観察力判断力を強化することをねらいとして生命活動演習を科目として設定する。

生化学、栄養学、微生物学、病理学、病態と治療学、臨床における診断過程、治療の実際を講義にとりいれ、臨床における看護の役割と看護の実際を学ぶことにつながる内容とする。

また対象を社会的存在としてとらえ、対象の生活と社会保障制度の関わりを学び、多くの専門職と協働し、看護職としての役割を發揮する力を養っていくために、社会保障論、地域医療論、関係法規などの科目を設定する。社会保障論においては、社会資源の活用を学ぶ演習をふくめる内容とする。

医療のIT化に対応し、情報管理の基礎を学ぶために情報科学を科目としてもうける。

科目名	単位数	授業時期	担当講師
医学概論	1単位 15時間	1年後期	非常勤講師 医師 酒井 昇
《学習目標》 医療、看護の基礎的概念科学とその歴史の変遷を学ぶ。			
授業内容			授業方法
1. 医療の流れ : 診察と検査 2. 医療の流れ : 診断と治療 3. 治療法概説 : 薬物療法と食事療法 4. 治療法概説 : 運動療法とリハビリテーション 5. 治療法概説 : 放射線療法 6. 治療法概説 : 手術療法 1)術前管理 7. 治療法概説 : 手術療法 2)術中管理と麻酔 8. 治療法概説 : 手術療法 3)術後管理			医師としての医療実践を基盤に医療の実際について概説する。 講義形式で進める。 *看護学の科学的基礎理論として位置づけられている。
《テキスト》 新体系 看護学全書 別巻 13 治療法概説 メヂカルフレンド社			
《評価》 評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
解剖生理学 I (人体の概要・消化器・呼吸器)	1単位 30 時間	1年前期	校長 医師 佐藤 利一
《学習目標》 人体の解剖学的仕組みと生理的働きを統合し科学的に理解する。			
授業内容			授業方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命、生物とは何か <ol style="list-style-type: none"> 1) 解剖生理学を学ぶための基礎知識 2) 人体とは 3) 細胞と組織 2. 身体の構造と機能 人体の概要: 器官と区分 3. 消化器系: 食物摂取と消化、吸収、排泄の仕組み 栄養の消化と吸収 <ol style="list-style-type: none"> 1) 口・咽頭・食道の構造と機能 2) 腹部消化管の機能と構造(胃・小腸・大腸) 3) すい臓・肝臓・胆道系の構造と機能 4) 腹膜 4. 5. 呼吸器系: 酸素摂取と二酸化炭素排出の意義と仕組み <ol style="list-style-type: none"> 1) 呼吸の働き 2) 呼吸器の構造(上気道・下気道) 3) 呼吸(呼吸運動・ガス交換・肺循環) 4) 呼吸の調節 5) 呼吸系の病態整理(換気障害・拡散障害・換気血流不均等) 			<p>看護の対象となる人間の生命、身体を理解を深めるために、一般病院での医師としての臨床経験を基盤に、解剖生理の基礎知識を解説する。</p> <p>模型、スライドを使用しながら、講義形式で進める。</p> <p>* 生命活動演習、病態と治療学に関わる基礎的科学を学ぶ。</p>
《テキスト》 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学			
《評価》 評価は筆記試験にて行う(60 点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
解剖生理学Ⅱ (循環器・血液・腎・内分泌系)	1単位 30時間	1年前期	非常勤講師 医師 及川 恒之
<p>《学習目標》 人体の解剖学的仕組みと生理的働きを統合して科学的に理解する。</p>			
授業内容			備考
<p>1. 血液の組成と機能</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 血液の組成と働き 2) 血液の凝固 3) 血液型 <p>2. 血液の循環とその調整</p> <p>身体の末端まで血液・リンパ液を送る仕組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 循環器系の構造 2) 心臓の構造 3) 心臓の拍出の機能 4) 血管の構造と機能 5) 血圧の調節 <p>3. 体液の調節と尿の生成</p> <p>物質の運搬と身体の保護や調節を行う仕組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 腎臓の構造と機能 2) 排尿路 3) 体液の調節 <p>4. 内臓機能の調整</p> <p>内分泌系:ホルモンによる内部環境を整える仕組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自律神経による調節 2) 内分泌による調節 3) ホルモン分泌の調節 4) ホルモンによる調節の実際 (糖代謝、カルシウム代謝、乳汁分泌、血圧調節) 			<p>講義形式で進める。</p> <p>模型、スライドを使用しながら進める。</p> <p>*生命活動演習、病態と治療学に関わる基礎的科学を学ぶ。</p>
<p>《テキスト》 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学</p>			
<p>《評価》 評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする)</p>			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
解剖生理学Ⅲ (運動器・神経系・感覚器)	1単位 30 時間	1年後期	非常勤講師 医師 及川 恒之
<p>《学習目標》 人体の解剖学的仕組みと生理的働きを統合して科学的に理解する。</p>			
授業内容			備考
<p>1. 運動器系の仕組みと働き 身体の支持作用とそれらの連結の仕組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 骨格とは 2) 骨格筋 3) 体幹の骨格と筋 4) 上肢の骨格と筋 5) 下肢の骨格と筋 6) 頭頸部の骨格と筋 7) 筋収縮の仕組み <p>2. 神経系の仕組みと働き 情報の収集と伝達、さらに判断の構造・仕組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 神経の構造と機能 2) 脊髄と脳 3) 脳の高次機能 4) 運動器と下行伝道路 5) 感覚器と上行伝道路 6) 眼の構造と機能 7) 耳の構造と機能 8) 味覚・嗅覚 9) 疼痛 			<p>講義形式で進める 模型、スライドを使用しながら進める。 * 生命活動演習、病態と治療学に関わる基礎的科学を学ぶ。</p>
<p>《テキスト》 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学</p>			
<p>《評価》 評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする)</p>			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
解剖生理学Ⅳ (生体防御・生殖器・成長と老化)	1単位 15時間	1年後期	非常勤講師 医師 及川 恒之
《学習目標》 人体の解剖学的仕組みと生理的働きを統合して科学的に理解する。			
授業内容		備考	
1. 外部からの防御 <ol style="list-style-type: none"> 1) 皮膚の構造と機能 2) 生体防御機構 3) 非特異的防御機構 4) 特異的防御機構 5) 体温調節の仕組み 2. 生殖・発生と老化の仕組み <p style="margin-left: 2em;">生殖器系: 子孫を残す構造と仕組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 男性生殖器 2) 女性生殖器 3) 受精と胎児の発生 4) 成長と老化 		講義形式で進める 模型、スライドを使用しながら進める。 * 生命活動演習、病態と治療学に関わる基礎的 科学を学ぶ。	
《テキスト》 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学			
《評価》 評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
栄養学	1単位 30時間	1年後期	非常勤講師 管理栄養士 鈴木 敬子・小泉 喜美子・ 小嶋 奈津枝・宇藤 初海
《学習目標》 人間の生命活動の源としての保健栄養学と治療の一環としての病態栄養学の基礎を学ぶ。			
授業内容		授業方法	
1. 人間栄養学と看護 2. 栄養素の種類と働き 糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラル・食物繊維・水 3. 食物の消化と栄養素の吸収・代謝 4. エネルギー代謝 5. 食事と食品 6. 栄養ケア・マネジメント 7. 栄養状態の評価・判定 8. ライフステージと栄養 ・乳児期における栄養 ・妊娠期における栄養 ・授乳期における栄養 ・高齢期における栄養 9. 臨床栄養 ・チームで取り組む栄養管理 ・栄養補給法 ・病院食 ・経腸栄養製品 ・静脈栄養剤 ・疾患・症状別食事療法の実際 ・場面別の栄養管理 ・がんの食事療法 10. 健康づくりと食生活 11. 調理実習		講義形式で進める 病院の管理栄養士としての栄養管理の実践を踏まえて解説する。 グループに分かれて、治療食の調理実習を行う(課題は、授業内に提示する)	
《テキスト》 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 [3] 栄養学 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 食品成分表 (大修館) 糖尿病食事療法のための食品交換表 最新版 (文光堂)			
《評価》 評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
薬理学	1単位 30時間	1年後期	非常勤講師 薬剤師 郡 淳二 薬剤師 野村 充代
《学習目標》 1, 薬物を生体に与えた時の吸収および排泄、薬理作用や副作用などの基礎知識を学ぶ。 2, 薬物による副作用の予防や早期発見に関わる看護の役割について学ぶ。			
授業内容		授業方法	
I 薬理学総論 1, 薬理学とは ① 「薬って何だろう」 ② 薬理作用について ③ 薬の副作用について 薬害について II 薬物の医療事故(与薬事故) 生命に直結する危険な薬剤について(なぜ危険なのかその根拠) ① カリウム製剤の静脈注射の危険性 ② インスリンの単位の誤りの危険 ③ キシロカイン・ネオフィリン・セルシンの急速静脈注射の危険性 ④ 麻薬の単位の誤りによる危険性 III 薬理学各論 1, 抗生物質、感染症治療薬、消毒薬 2, 免疫治療薬 3, 自律神経薬 4, 中枢神経系薬 5, 心・血管系薬 6, 呼吸・消化器・生殖器系に作用する薬物 7, 物質代謝に作用する薬物 8, 抗ガン薬		・講義形式で進める ・一般病院および保険薬局での薬剤師としての実務経験に基づいて、臨床で使用される、各種製剤の実際薬物療法における留意すべき点などを解説する。 ・倍数計算などの実践的な練習を行う ・臨床の与薬事故を教材化し、生命維持に危険性がある薬物を取り上げ、その危険性を理解する。 ・臨床で使用される製剤と危険性について礼を挙げて説明する ・臨床で実際に起きている与薬事故から、間違えると生命維持に危険性がある薬物を取り上げ、その危険性を理解する。 授業の進度をみて小テストで復習し知識を確認する。 ・臨床で行われる、薬物療法の事例を挙げ説明する。	
《テキスト》 系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学			
《評価》 評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
病理学	2単位 45時間	1年後期	非常勤講師 医師 鹿野 哲・伊藤 真理子・村上 洋平 八代 真一 臨床検査技師 秋葉 直人
《学習目標》 疾病や傷害の要因及び、疾病障害による形態や機能への影響を学び、臨床症状を観察できる基礎的知識を学ぶ			
授業内容		授業方法	
<p>I 病理学総論と付章</p> <p>1. 病理学とは ①疾病の原因と分類 ②診断</p> <p>2. 先天異常 ①先天異常とは ②遺伝性疾患、染色体異常による疾患、胎児障害</p> <p>3. 代謝障害 4. 循環障害 5. 炎症と免疫、膠原病</p> <p>6. 感染症 7. 腫瘍 8. 老化と死</p> <p>II 病理学各論</p> <p>1, 循環器疾患— 奇形、虚血生心疾患など</p> <p>2, 血液・造血器疾患— 貧血、白血病など</p> <p>3, 呼吸器疾患— 肺炎、閉塞性・拘束性肺疾患、肺腫瘍、胸膜疾患</p> <p>4, 消化器疾患— 口腔・食道・腸・腹膜・肝臓・胆道・膵臓疾患</p> <p>5, 腎・泌尿器疾患、生殖器疾患</p> <p>6, 内分泌系疾患— 下垂体・副腎皮質・甲状腺疾患、糖尿病など</p> <p>7, 脳・神経・筋肉系疾患— 脳神経系の循環障害・感染症・変性疾患・腫瘍、筋ジストロフィー、筋無力症</p> <p>8, 骨・関節系疾患— 骨折・骨粗鬆症・骨腫瘍・ヘルニア・関節リウマチ</p> <p>9, 耳・目・皮膚疾患</p> <p>III 臨床検査</p> <p>1. 臨床検査とその役割 2. 臨床検査の流れと看護師の役割</p> <p>3. 化学検査、免疫・血清検査、ホルモン検査、一般検査、血液検査、病理検査、生理検査 4. 臨床検査見学実習</p>		<p>講義形式で進める</p> <p>病院における診断部門の意思ついでの実践に基づき、病理診断の実際と役割について解説する。</p> <p>*解剖生理学、微生物学との関連で学ぶ。</p> <p>病院における臨床検査技師の実践を基礎に、臨床検査の実際について解説する。</p>	
《テキスト》 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 病理学 系統看護学講座 別巻 臨床検査			
《評価》 評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする) 試験配点 病理 60 点、臨床検査 40 点			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
病態と治療学 I (消化器・内分泌・免疫系)	1単位 30時間	1年後期	非常勤講師 医師 森園 竜太郎・河島 秀昭 石後岡 正弘・湯野 暁子 中村 祥子
《学習目標》 消化器疾患、内分泌疾患、乳腺疾患の病態と検査治療について学ぶ			
授業内容		授業方法	
<p>【単元1】消化器疾患の病態と検査治療(12時間)</p> <p>1) 胃・十二指腸疾患、胆石症、イレウス、肝炎・肝硬変・肝臓癌、食道癌、胃癌、大腸癌などを中心に病態の理解</p> <p>2) 検査治療は潜血検査、消化管造影検査、肝生検、内視鏡、腹部エコー、薬物手術療法</p> <p>【単元2】消化器疾患の手術療法：、急性腹症、(8時間)</p> <p>上部消化管(胃切除、食道再建術) 下部消化管(大腸切除、人工肛門造設) 肝臓・胆のう・すい臓(肝臓切除、胆管結石切除術)</p> <p>【単元3】内分泌疾患の病態と検査治療(8時間)</p> <p>1) 内分泌器官とホルモンの働き</p> <p>2) 糖尿病</p> <p>3) 先端巨人症・クッシング病・バセドウ病・橋本病・クッシング症候群、(高脂血症、痛風)</p> <p>4) 検査:ホルモン検査、ヨード検査、糖負荷試験、</p> <p>5) 治療:インスリン療法、食事・運動療法</p> <p>6) 治療薬として使われているホルモン剤</p> <p>【単元4】乳腺、甲状腺疾患の病態と治療について(2時間)</p> <p>1) 乳がんの病態と治療</p> <p>2) 甲状腺疾患の病態と治療</p>		<p>講義形式で進める 国家試験の過去問題で復習小テスト ・パワーポイント使用</p> <p>・パワーポイント使用 ・復習小テストを行う。</p>	
《テキスト》 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論			
《評価》 評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする) 試験配点(消化器疾患 60点[内科 30 外科 30]、内分泌疾患 30点、乳腺・甲状腺疾患 10点)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
病態と治療学Ⅱ (呼吸器・循環器・血液系)	1単位 30時間	1年後期	非常勤講師 医師 中野 亮司・奥山 道記・田尾 嘉浩 山川 智士・佐賀 智之
《学習目標》 呼吸器疾患、循環器疾患、血液・造血器疾患の病態と検査治療について学ぶ			
授業内容			講義方法
<p>【単元1】呼吸器疾患の病態と検査治療について(10時間) 総論:呼吸器の生理と機能(肺機能の分類、酸塩基平衡) 検査と治療処置:肺機能検査、血ガス、ph、XP、気管切開・挿管手術、放射線療法、化学療法、薬物療法、酸素療法 1)病態・治療:感染症(かぜ・肺炎・結核)、気道疾患(喘息・慢性閉塞性肺疾患一肺気腫・気管支拡張症)、気胸、肺塞栓、肺腫瘍(疫学・診断・治療・予防(肺癌・上大静脈/ホルネル症候群・パンコスト腫瘍)) 2)呼吸不全:呼吸不全の定義、低酸素血症の機序、治療(HOT)</p> <p>【単元2】肺がんの外科的治療(2時間)</p> <p>【単元3】循環器疾患の病態と検査治療について(10時間) 1) 総論:循環器の生理と機能 2) 検査:心電図、心臓カテーテル、心エコー、酵素、CVP 3) 病態・治療:虚血性心疾患、弁膜症、心不全、高血圧、動脈系疾患を中心に不整脈、胸部症状、ショックなどの症状</p> <p>【単元4】心疾患の外科的治療(2時間)</p> <p>【単元5】血液・造血器疾患の病態と検査治療について(6時間) 1) 総論:血液の成分、血液型と輸血、血液成分の欠乏とその症状 2) 病態と処置、検査:腫瘍性疾患(白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫の治療、鉄欠乏性貧血)、再生不良性貧血、紫斑病、血友病など 3) 治療:化学療法(抗がん剤)、造血肝細胞移植</p>			講義形式で進める ・スライドを使用して視覚にもはたらきかける
《テキスト》 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論			
《評価》 評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする) 試験配点(呼吸器疾患 40点〔内科 30 外科 10〕、循環器疾患 40点、〔内科 30 外科 10〕、血液疾患 20点)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
病態と治療学Ⅲ (腎・免疫・神経系)	1単位 30時間	2年前期	非常勤講師 医師 水上 健一・入宇田 智子 松本 巧 桂川 高雄・塩川 哲男・臺野 巧
《学習目標》 腎疾患、アレルギー・膠原病、脳神経疾患、脳血管疾患の病態と治療について学ぶ			
授業内容			授業方法
<p>【単元1】 腎・泌尿器疾患の病態と検査治療について(6 時間)</p> <p>1) 総論:腎臓の解剖生理・検査、水・電解質バランス、酸塩基平衡</p> <p>2) 病態と処置、検査:電解質異常、各種腎疾患(IgA腎症、ネフローゼ、糖尿病性腎症)腎不全と腎機能検査、腎生検</p> <p>3) 治療:安静・減塩・利尿・降圧・ステロイド治療、血液透析を中心に尿路結石、尿路感染、前立腺肥大</p> <p>【単元2】 アレルギー・膠原病の病態と検査治療(8 時間)</p> <p>1) 免疫とは、アレルギー性疾患、自己抗体とは</p> <p>2) 慢性関節リウマチ、SLE、アミロイドーシス、血管炎 強皮症、皮膚筋炎、シェーグレン症候群</p> <p>【単元3】 脳神経疾患の病態と治療(10 時間)</p> <p>1) 脳神経疾患の診断・治療</p> <p>2) 脳神経疾患患者の看護</p> <p>3) 泌尿器疾患の診断と治療</p> <p>【単元4】 脳血管疾患の病態と治療(6 時間)</p> <p>1) 脳外科手術の適応と診断</p> <p>2) くも膜下出血、高血圧性脳出血、心原性脳梗塞</p>			<p>講義形式で進める</p> <p>スライドやパワーポイントを使用し 視覚での学習も併用する</p>
《テキスト》			
<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論</p>			
《評価》			
<p>評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする)</p> <p>試験配点(腎疾患 20 点、アレルギー疾患 30 点、脳神経疾患 30 点、脳血管疾患 20 点)</p>			

科目	単位数	授業時期	担当講師
病態と治療学IV (感覚器系)	1単位 30時間	2年後期	非常勤講師 単元1 医師 高橋 雅子 単元2 医師 酒井 昇 単元3 医師 土屋 芳治・田村 喜代 単元4 歯科医師 加藤 幸紀・森 真理
《学習目標》 感覚器障害の病態と検査・治療について学ぶ			
授業内容			備考
<p>単元1. 皮膚科疾患の病態と検査・治療(6時間) 皮膚の構造と機能、熱傷、アトピー、褥創、伝染性皮肤病など 皮膚反応テスト、スキンケア、薬物・ステロイド療法</p> <p>単元2. 耳鼻科疾患の病態と検査・治療(8時間) 耳・鼻の構造と機能、外・中・内耳炎、メニエール病、アレルギー、咽頭・喉頭がん、ポリープ吸入、減感作、ステロイド、手術療法など</p> <p>単元3. 眼科疾患の病態と検査・治療(8時間) 目の構造と機能、流行性結膜炎、近・遠・弱視、眼底出血、白内障、緑内障、網膜症、網膜剥離 薬物・点眼・レーザー・手術療法、光凝固、眼鏡など</p> <p>単元4. 歯科疾患の病態と検査・治療(6時間) 齲蝕、歯髄炎、歯周炎、口内炎、口腔癌 補綴の種類、適応、義歯の取扱、小児・矯正・予防歯科</p>			講義形式で進める スライドやパワーポイントを使用し 視覚での学習も併用する。
《テキスト》			
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学 [12]	皮膚
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学 [14]	耳鼻咽喉
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学 [13]	眼
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学 [15]	歯・口腔
耳鼻咽喉科学教本			
《評価》			
評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする)			
試験配点(皮膚科疾患 20 点、耳鼻科疾患 30 点、眼科疾患 30 点、歯科疾患 20 点)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
病態と治療学V (手術療法・放射線療法)	1単位 30時間	2年前期	非常勤講師 単元1 医師 細川 誉至雄・古明地 恭子 単元2 臨床放射線技師 船山 和光
《学習目標》 手術療法、麻酔療法、放射線療法について治療の目的、優位性を学ぶ			
授業内容		講義方法	
<p>【単元1】手術療法(外科総論) (6時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 外科の歴史、医師の倫理指針 2) 手術侵襲と生体反応 3) 体液管理、酸塩基平衡 4) 栄養管理(高カロリー輸液、末梢静脈栄養、経腸栄養法) 5) 創傷管理、臓器移植 <p>【単元2】麻酔法 (14時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 麻酔学総論 2) 全身麻酔(吸入麻酔、静脈麻酔、筋弛緩剤) 3) 局所麻酔 4) 脊椎麻酔と硬膜外麻酔の共通点・相違点、ペインクリニック 5) 輸血療法 6) 呼吸不全と酸素療法、ショック 7) CPR(心肺蘇生法) 講義と演習 <p>【単元3】放射線療法(10時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 放射線の種類・性質: 人体に与える影響と障害、被爆防護について 2) CT検査: CTの基礎、単純CTと造影CT 造影剤について(副作用と造影剤の予備テスト) 3) RI検査: 放射線同位元素について、RI検査の被爆、放射性 医薬品、RI検査室の管理 4) MRI検査: MRIの安全面に関する事項、検査の内容、禁忌事項 5) TVレントゲンの検査 		<p>講義形式で進める</p> <p>麻酔法は最終授業で救急蘇生法の演習を行う。 演習は勤医協中央病院の ACLS チームの5～6名のインストラクターによる実技指導および、一次救急の演習を行う。</p> <p>実際の画像を解説し、画像に慣れる機会とする</p>	
《テキスト》			
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学			
《評価》			
評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする) 試験配点(手術療法 30 点、麻酔法 40 点、放射線療法 30 点)			

担当科目	単位数	授業時期	担当講師
社会保障論	2単位 30時間	3年前期	非常勤講師 社会福祉士 行沢 剛・桜井 亨弘 水上 寿恵・ 藤田 幸司 戸倉 朋子
《学習目標》			
1, 歴史的に発展してきた社会保障の理念の変遷をとらえる。 2, 働く人々、高齢者、母子の社会保障について学ぶ。 3, 世界と日本の比較で社会保障を学ぶ。			
授業内容			授業方法
1, 現代の社会問題と社会福祉 2, 社会保障の成立とあゆみ(欧米)— 福祉の理念と医療制度 北欧5ヶ国、スウェーデンを中心とする先進的福祉国家の歴史を知る。欧米と日本の医療保障制度を比較し理解する 3, 社会保障の成立とあゆみ(日本) 歴史の中で発展してきた社会保障制度を国民の生活の場面から理解する。日本の社会保障制度の現在と今後の見通し 4, 医療保険制度 社会保障に基づく医療保障制度と医療保険の現状と課題 雇用保険・労災保険 5, 生活保護法 制度の目的、3つの基本原理と4つの原則、8つの扶助、生活保護費の計算 6, 老人保健法 歴史と制度 7, 介護保険制度 8, 精神保健福祉 歴史の流れと現行制度の課題 9, 老人福祉法 10, 児童・母子福祉 11, 身体障がい福祉 障がいとは何か 障がいをもって生きるとは 障がい者福祉の発展と経過、障がい者基本法と障がいプラン、 ノーマライゼーションの思想、障がい者の定義と実態、在宅・施設福祉施策 12, 年金制度 歴史と制度 13, ソーシャルワーク論 ソーシャルワーク援助技術 看護師との連携 14, 演習			・講義形式で進める ・憲法の理念、関係法規、地域医療論との関連で理解する。 ・福祉・介護分野を充実し新しい情報も授業に組み入れていく。 ビデオ視聴 その他 自分たちの生活がどんな法律・法規で守られているか考えながら授業に参加する
《テキスト》			
系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度[3] 社会福祉			
《評価》			
評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
地域医療論 I (公衆衛生)	1単位 15時間	2年後期	非常勤講師 医師 若葉 金三
《学習目標》 総合保健医療・看護の視点から社会福祉、公衆衛生について学ぶ。			
授業内容			授業方法
1. 導入 地域医療の概念 2. 公衆衛生の基礎を理解する 1) 公衆衛生と地域保健、地域医療 2) 公衆衛生と環境保健			講義形式で進める ・憲法の生存権保障の理念との関連で学ぶ。 ・公衆衛生活動が健康づくりをどのように支援しているのか理解する。
《テキスト》 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生学 (メヂカルフレンド社)			
《評価》 評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする)			

専門分野 I

専門分野 I 16 単位

専門分野 I (基礎看護学)は、看護の概念や役割を学ぶとともに、対象と信頼関係を築き、対象の状況に応じた看護を展開するために必要な基礎看護技術、看護過程を学び、専門分野 II や統合分野の学習の基礎として位置づける。

基礎看護概論は、看護を学ぶ上で基礎になる概念と歴史、看護の役割を学ぶ。基礎看護技術 I は、看護技術の特性と看護実践の共通の技術となるコミュニケーションを内容として、看護技術を学ぶ土台を築く科目となる。基礎看護技術 II はフィジカルアセスメント、IIIからIVまでは、日常生活援助技術とする。

基礎看護技術VIIでは、日常生活援助技術に関して技術の安全性と、統合力の到達を明らかにすると共に、学習を共有することをねらいとしたゼミナールを行う。

基礎看護技術VおよびVIを診療に伴う技術とし、基礎分野、専門基礎分野の学習とも連動させながら展開する。

看護過程については、基礎看護技術VIIIで看護過程の基礎を学び、臨床看護総論 I において各期の看護過程の展開を学ぶ科目設定とする。

臨床看護総論 II は、臨床において多く体験する医療機器の管理とその状況下にある対象の看護を学ぶ。

科目	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護学概論 I (看護の概念)	1単位 30 時間	1 年前期	教務主任 看護師 花田 未希子
《学習目標》			
1. 看護を学ぶにあたっての学び方を学ぶ。 2. 看護の対象である人間の理解を深める。 3. 基本的人権と健康権と看護のかかわりを学ぶ。			
授 業 内 容			授 業 方 法
第1講 看護とは1:看護を学ぶ「学び方」 看護の源泉と近代看護のはじまり 第2講 看護とは2:フローレンス・ナイチンゲールと看護 「看護覚書」を通して 第3講 ～5「病院探検」:看護を学ぶ立場から「病院」、「看護師の仕事」を探求しよう 第6講 看護の対象1:人間とは 身体的精神的社会的存在としての人間 第7講 看護の対象2:人間の成長発達、身体的成長の特徴 発達課題 8講 看護の対象3:人間の基本的欲求 欲求段階論 ヴァージニアヘンダーソンの看護論 第9講 看護の対象4:社会的存在としての人間 「生活」をとらえる視点 第10 講 健康とは:「健康観」 健康の概念の変遷 基本的権利としての健康 第11 講 健康とは WHO の健康施策(プライマリ・ヘルスケア ヘルスプロモーション 健康の社会的決定要因 健康格差の実態 第12 講 健康とは:日本におけるヘルスプロモーション 「第2次 健康日本 21」 健康の指標－人口動態と出生 第13 講 健康とは:健康の指標－子どもの健康 死亡動向 平均余命の変化 第14 講 健康とは 健康の指標－高齢化の特徴、有訴率、通院率、受療率等 第15 講 まとめ 「わたしの看護観」第1講 看護を学ぶ「学び方」と看護の源泉			・講義形式を基本に進める ・一般病院の内科病棟および外来での看護実践を基盤に、看護の動向や実際、看護の概念を解説し、健康、看護の対象をとらえる視点を広げる。 ・臨床で経験する事例を教材化し、患者の健康を社会的決定要因でとらえる基盤を学ぶ。 ・臨地実習病院の見学を行い、看護実践の場、患者の療養に対する認識を深める。
《テキスト》			
系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論 「看護の基本となるもの」 「看護覚え書き」 「よくわかる中範囲理論」			
《評価》			
評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする)			

科目	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護学概論Ⅱ (看護の歴史と役割)	1単位 15時間	1年前期	副校長 看護師 片岡 和江
<p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の歩みとともに看護の概念が発展してきたことを学ぶ。 2. 看護実践の過程を学ぶ。 3. 保健、医療、福祉チームの中での看護師の役割を学ぶ。 			
授 業 内 容			授 業 方 法
<p>第1講 社会の発展と医療・看護の変遷1 古代から近代の医療と看護</p> <p>第2講 社会の発展と医療・看護の変遷2 戦時下の看護、戦後の看護の変遷 地域包括ケアに求められる看護の役割</p> <p>第3講 フローレンス・ナイチンゲールの功績と看護 DVD「看護覚書」(川嶋みどり編集)</p> <p>第4講 「看護覚書」を読んでみよう</p> <p>第5講 医療における基本的人権擁護1 基本的人権とは、医療における基本的人権の擁護</p> <p>第6講 医療における基本的人権擁護2 医療における人権擁護の歴史 基本的人権擁護の基盤となる概念 基本的人権擁護の立場に立つ看護実践</p> <p>第7講 医療と人権を考える 医療における人権を考える ハンセン氏病の歴史と人権</p> <p>第8講 基本的人権を擁護する看護 看護師の倫理綱領</p>			<p>看護師としての経験を基盤に看護の歴史及び、現代に求められる看護師の役割について解説する。 講義形式で進める</p> <p>教科書とDVD学習を通して看護の歴史を学ぶ。</p> <p>講義を中心に進める</p>
<p>《テキスト》</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1] 看護学概論 看護学生のための日本看護史 ナイチンゲール「看護覚書」</p>			
<p>《評価》</p> <p>評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする)</p>			

科目名	単位数	講義時期	担当講師
基礎看護技術 I (共通技術)	1単位 15 時間	1年前期	副校長 看護師 片岡 和江
単元:看護技術概論 講義時間8時間			
《学習目標》 1. 看護技術の特徴と基本原則を理解する。 2. 基礎看護技術の内容とその学び方を理解する。 3. 看護における安全安楽の意義と安全を阻害する因子について理解する。			
授 業 内 容			授 業 方 法
第1講 看護技術の特徴を探究的に学習する テーマ:「顔を洗う」 第2講 看護技術の特徴と学び方 ・看護技術とは ・看護技術の特徴 ・看護技術の学び方 ・技術と技能 ・看護技術に求められる「安楽性」とは 第3講 看護技術に求められる「安全性」 ・ヒューマンエラー ・アクシデントとインシデント ・ハインリッヒの法則 第4講 医療の安全性の基礎知識 ・医療事故の実態 ・安全に看護を実施するために ・危険予知訓練			講義形式で進める 看護の対象に対して、ケアとして行う看護技術を行うことの意味を探求する。 具体的な看護技術に関する講義が同時に展開されていくが、それらを「方法や手順を覚える」という学び方ではなく、「なぜそうするのか」という目的と根拠を探求しながら学びを進めるための序論となるように進める。 個人またはグループで思考し共有する協同学習を取り入れて行う。
<テキスト> 新体系 看護学全書 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I (メヂカルフレンド社) 新体系 看護学全書 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 II (メヂカルフレンド社)			
《評価》 評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする) 試験配点(技術概論 50 点、コミュニケーション 50 点)			

科目	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護技術 I (共通技術)	1 単位 15 時間	1 年前期	専任教員 看護師 和田 都
単元 :コミュニケーション技術 講義時間:8 時間			
<p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションについての基礎知識を理解する。 2. 看護におけるコミュニケーションの意義や留意点について理解する。 3. 看護場面でのコミュニケーションについて考える。 			
授 業 内 容			講義方法
<ol style="list-style-type: none"> 1 コミュニケーションとは <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションの構成要素と分類 ・ 日常生活でのコミュニケーションを考える ・ コミュニケーションを阻害する因子 2 看護におけるコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護におけるコミュニケーションの意義 ・ 看護におけるコミュニケーションの留意点 ・ コミュニケーションのプロセス 3 看護場面のコミュニケーションについて考える <ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬事例との適切なコミュニケーションについて考える ・ ロールプレイング 			<p>講義形式で進める</p> <p>随時グループワークを取り入れる。</p> <p>患者、看護師、家族役を決めロールプレイングを行い、看護場面の適切なコミュニケーションについて交流する。</p>
<p>《テキスト》</p> <p>新体系 看護学全書 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I (メヂカルフレンド社)</p>			
<p>《評価》</p> <p>評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする)</p> <p>試験配点 技術概論 70 点、<u>コミュニケーション 30 点</u></p>			

科目	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護技術Ⅱ (フィジカルアセスメント)	1 単位 45 時間	1 年前期	専任教員 看護師 久保田千香子
単元:観察 講義時間:4時間			
<p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護展開における観察の意義と必要性を理解する。 2. 能動的観察についての理解を深める。 			
授 業 内 容			授 業 方 法
<p>第1講 情報収集は看護のスタート</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)看護過程における観察とは (2)観察の方法 (3)看護は事実から出発する <p>第2講 能動的観察</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)観察の視点 (2)観察の手段 (3)能動的観察の意義を学ぶ (4)観察の必要条件 (5)観察の留意点 			<p>講義及び実技を取り入れて進める</p> <p>一般病棟での看護師としての実践を踏まえて、看護実践に必要な情報収集と観察の意義を解説する。</p> <p>事例を通し、観察の意義を考える。</p>
<p>《テキスト》</p> <p>新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ (メヂカルフレンド社)</p>			
<p>《評価》</p> <p>評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする)</p> <p>試験配点は観察 10 点、体表面の観察と身体計測 10 点、胸部・腹部の観察 15 点、バイタルサインの観察 55 点、問診・記録・報告 10 点</p>			

科目	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護技術Ⅱ (フィジカルアセスメント)	1 単位 45 時間	1 年前期	専任教員 看護師 和田 都
単元:体表面の観察と身体計測 講義時間:6時間			
《学習目標》			
1. 看護過程における全身状態の情報として、体表面の観察および身体計測の意義について学ぶ。 2. 身体計測の原理・原則を理解し、測定方法を習得する。			
授 業 内 容			授 業 方 法
<第1講> 講 義 1、体表解剖とフィジカルアセスメント 1) 体表解剖の重要性 2) 体表面の解剖学的名称 2、体表面のアセスメント 1) 皮膚 2) リンパ節 3) 甲状腺 <第2講> 講 義 ～身体計測～ 1、体格(健康、疾病の指針) 1) 身長…検査、薬物量の算定、骨の発達など 2) 体重…栄養評価、浮腫の評価、治療評価、薬剤量の指標 3) 体脂肪厚…栄養状態(肥満、痩せの指針) 2、運動機能 1) 関節可動域測定 2) 徒手筋力測定 <第3講> 実技 演習 1、リンパ節と甲状腺の触診をしてみよう。 2、関節可動域(教科書の関節角度を体位で体験しよう。) 3、筋力(徒手筋力テスト)は教科書を参考にして測定しよう。 * 視力測定を演示のみ行う(健康診断時期によっては省略)			実技と講義で進める 看護師としての実践を基盤に観察の意義を解説する。 * 身長、体重、皮下脂肪など体型に関わる数値を美容やスタイルとして捉えるのではなく、健康や疾病の視点で捉える * 関節可動域と筋力理解することで、看護師として生活行動との関連付けて考える事がねらいであり、専門的にはリハビリテーションと解剖生理学に委ねる。 * グループ単位で実技演習とし、ジャージ上下と帽子、ナースシューズで行う。
《テキスト》			
新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ(メヂカルフレンド社) 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 実践するヘルスアセスメント 学研			
《評価》			
評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする) 試験配点は観察 10 点、体表面の観察と身体計測 10 点、胸部・腹部の観察 15 点、バイタルサインの観察 55 点、問診・記録・報告 10 点			

科目	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護技術Ⅱ (フィジカルアセスメント)	1 単位 45 時間	1 年前期	専任教員 看護師 伊藤 保恵
単元:胸部・腹部の観察 講義時間:4時間			
《学習目標》 フィジカルアセスメントの基本となる胸部・腹部の基本的観察技術を身につける。			
授 業 内 容			授 業 方 法
1講目 胸部・腹部の観察の意義と方法 ① 呼吸器系のフィジカルアセスメント 呼吸音の実際と聴取の方法 ② 循環器系のフィジカルアセスメント 心音の実際と聴取方法、 ③ 腹部のフィジカルアセスメント 腹部触診、打診、腸蠕動音の意味と聴取方法 2講目 胸部・腹部の観察技術の実際(演習) ① 呼吸音、心音、腸蠕動音の聴取の実際 ② 腹部触診、打診の実際			・講義と実技演習で進める ・DVD での学習 アセスメントに必要な基礎知識を解説する 演習は3～4人でグループを作り、実技演習を行う。患者と観察者を体験する。
《テキスト》 新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ (メヂカルフレンド社) 実践するヘルスアセスメント 身体の構造と機能からアセスメントを導く (Gakken)			
《評価》 評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする) 試験配点は観察 10 点、体表面の観察と身体計測 10 点、 <u>胸部・腹部の観察 15 点</u> 、バイタルサインの観察 55 点、問診・記録・報告 10 点			

科目	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護技術Ⅱ (フィジカルアセスメント) 単 元:バイタルサインの観察 講義時間:24 時間	1 単位 45 時間	1 年前期	専任教員 看護師 身崎 佳世
《学習目標》 1. フィジカルアセスメントとしてのバイタルサインの意義を理解する。 2. 脈拍・血圧・体温・呼吸・意識の性質の正常・異常について理解する。 3. 脈拍・血圧・体温・呼吸・意識の影響因子がわかる。 4. 脈拍・血圧・体温・呼吸を正確に観察・測定できる。			
授 業 内 容			授 業 方 法
第1講 バイタルサインの意義 第2講 血液循環の仕組みと働き～脈拍・血圧の観察と測定 第3、4講 脈拍・血圧の観察と測定技術 (演習) 第5講 体温・呼吸の仕組みと働き 第6講 体温測定と呼吸の観察(演習) 第7講 意識の観察・バイタルサインの記録方法 第8講 バイタルサインのまとめと形成テストの導入 第9、10講 バイタルサインの観察と測定(総合演習) 第11、12講 《形成テスト》			病院における看護実践に基づいて、バイタルサイン、観察の意義について解説する。 ・第 1 講前に血液循環・呼吸・体温の仕組みと働きについて自己学習し、ノート提出をする。(別途提起) ・授業は講義と演習で構成し、演習前に教員が演示を行う。 ・実技演習はこちらで提示した3～4名のグループで行う。
《テキスト》 新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ (メヂカルフレンド社)			
《評価》 実技については最終講で、形成テストを実施する 評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする) 試験配点はバイタルサインの観察 55 点、観察 10 点、体表面の観察と身体計測 10 点、胸部・腹部の観察 15 点、問診・記録・報告 10 点			

科目	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護技術Ⅱ (フィジカルアセスメント)	1単位 45 時間	1 年前期	専任教員 看護師 佐々木 栄理子
単元:問診・記録・報告 講義時間:6時間			
<p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問診による情報収集の基本を理解する。 2. 看護記録の原則と基本事項を理解する。 3. 看護実践における報告の意義と原則を理解する。 			
授 業 内 容			授 業 方 法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 問診と記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 面接による問診 (2) アナムネーゼの聴取 (3) 問診の留意点 (4) 看護記録の実際 2. 看護記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護記録の目的と意義 (2) 看護記録の留意点 (3) PONR、フローシート記載の実際 3. 記録の実際と報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護記録法規制 (2) 看護学生の医療情報管理 (3) 報告の目的と原則 			<p>看護実践に基づいて、実際の看護記録、報告の意義を解説し、状況設定の下に実技を交えて学ぶ。</p> <p>* 守秘義務と個人情報の保護の基礎を学ぶ。</p> <p>* 臨地実習で用いられている問題志向型診療記録(POMR)について、記載の基本を学ぶ。</p>
<p>《テキスト》</p> <p>新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ (メヂカルフレンド社)</p>			
<p>《評価》</p> <p>評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする)</p> <p>試験配点は問診・記録・報告 10 点、観察 10 点、体表面の観察と身体計測 10 点、胸部・腹部の観察 15 点、バイタルサインの観察 55 点、</p>			

科目	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護技術Ⅲ (環境調整、清潔援助技術)	2単位 45 時間	1年前期	専任教員 看護師 身崎 佳世
単元:病床環境 講義時間:16時間			
《学習目標》			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康生活の維持や疾患の回復のために、生活環境の果たす役割について学習する。 2. 生活環境調整の重要性について学習を深め、個々の患者に適した快適で安全な療養環境を提供することができる。 3. 清潔で寝心地がよく、耐久性のあるベッドを作ることができる。 4. 患者が臥床したままの状態ですべてのリネンを交換することができる。 			
授 業 内 容			授 業 方 法
第1講 環境とは 健康生活と環境 患者を取り巻く生活環境 第2講 療養環境の調整 病室、病床を構成するものと病床整備の実際 第3講 病床整備・基本ベッドの作り方(授業と演示) リネン類の準備とたたみ方 ベッドメイキング 第4講 病床整備・基本ベッドの作り方(演習) 第5、6講 《形成テスト》 基本ベッドの作り方 第7、8講 病床整備・臥床患者のリネン交換(演示・演習)			看護師の経験に基づき、環境整備の意義と方法を解説し、技術獲得を促す。 ・講義 ・演習室(第6教室)で講義後、演示 ・講義後、演示 ・評価表に基づき2人1組で練習 ・講義、演示後に3人1組で演習
《テキスト》			
新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (メヂカルフレンド社)			
《評価》			
実技については、演習時チェックリストにより確認 評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする) 試験配点は身体の清潔 50 点、 <u>病床環境 50 点</u>			

科目	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護技術Ⅲ (環境調整、清潔援助技術)	2単位 45 時間	1年前期	専任教員 看護師 佐藤 幸子 吉田 文絵 身崎 佳世
単元:身体の清潔 講義時間:30 時間			
《学習目標》			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康生活における身体清潔の意義を理解する 2. 皮膚および粘膜の解剖生理を理解する 3. 疾病時の清潔の重要性について理解する 4. 皮膚および粘膜の観察ができる 5. 皮膚および粘膜の清潔法について専門的な知識を習得する 6. 全身の清潔のケアが原則にもとづいて安全に実施できる 			
授 業 内 容			授 業 方 法
第1, 2講	身体清潔の意義 皮膚および粘膜のしくみとはたらき 保清を行う上での安全で安楽な技術の原則 GWを通して、安全な湯の温度、タオルの使い方などを考える	看護師としての経験に基づいて、清潔の意義を解説する * 演習によるチェック表は演習毎に記載、提出	
第3, 4講	手浴・足浴・爪切り(講義・演習)	演習室で実際に物品を用いてGWを行う	
第5, 6講	モーニングケア(講義・演習)	整髪については洗髪の講で行う	
第7講	口腔内の清潔・洗面の援助 寝衣交換(講義・演示) 身体を覆う衣服(寝衣)の意義と着脱の援助		
第8講	全身清拭(講義・演示)	清拭は、	
第9, 10講	全身清拭(演習)	・課題提起	
第11講	洗髪(講義・演示)	・演習後ノート提出	
第12, 13講	洗髪(演習)		
第14, 15講	陰部洗浄(講義・演習)	陰部洗浄はモデル人形を使用	
《テキスト》			
新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ(メヂカルフレンド社)			
《評価》			
実技については、演習時にチェックリストにより確認し、途中形成テストを行う〔課題は清拭〕			
評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする)			
試験配点は身体の清潔 50 点、病床環境 50 点			

科目	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護技術Ⅳ (生命活動を支える技術)	1単位 30時間	1年前期	専任教員 看護師 伊藤 保恵
単元:活動と休息 授業時間:12時間			
<p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 活動と休息の意義としくみが理解できる 2. 活動と休息の障害における人体・生活に与える影響と援助の必要がわかる 3. ボディメカニクスを活用し安全・安楽な体位変換・移動ができる。 4. 休息と睡眠の援助の視点がわかる。 			
授 業 内 容			授 業 方 法
<p>第1 講目 人間の生活—活動と休息の意義としくみ 活動障害の人体・生活に与える影響</p> <p>第2 講目 活動と休息の援助技術 ボディメカニクスを活用した安全・安楽な体位及び移動の技術について</p> <p>第3 講目 演示・演習 安楽な体位と体位変換</p> <p>第4 講目 演習 安楽な体位と体位変換</p> <p>第5 講目 演習 移乗・移動 ①車椅子移動 ②ストレッチャー移動</p> <p>第6 講目 睡眠・睡眠障害の看護</p>			<p>看護師としての実践を踏まえて、活動と休息にかかわるケアの実際を解説する。</p> <p>演習と講義で進める</p> <p>第3講目の演習に向け、学習ノートを作成、放課後自己練習する。 (演習まで4～5日あける)</p> <p>第4・5講目 自己学習し臨む。</p> <p>・技術カードは演習ごとに記載、提出する。</p> <p>・ノート提出。</p>
<p>《テキスト》</p> <p>新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ (メヂカルフレンド社)</p> <p>新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (メヂカルフレンド社)</p> <p>ベッドサイドを科学する</p>			
<p>《評 価》</p> <p>評価は筆記試験及びレポートで行う(60点以上を合格とする)</p> <p>試験配点は活動休息 50 点(レポートは 10 点、試験配点は 40 点)、<u>食事と排泄 50 点</u></p>			

科目	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護技術Ⅳ (生命活動を支える技術)	1単位 30 時間	1年前期	専任教員 看護師 吉田 文絵 佐々木栄理子
単元:食事と排泄 授業時間: 18 時間			
《学習目標》 食事:人間にとっての栄養と食事の意義を理解できる。 食事の援助における看護師の役割について理解する。 疾病、摂食障害のある対象の食事援助の実際を理解する。 排泄:人間にとっての排泄の意義を理解する。 排泄援助の目的、留意事項を理解する。 排泄障害の種類や程度に応じた基本的援助技術を修得する。			
授 業 内 容			授 業 方 法
食事とは (第1講 講義) ① 人間にとっての食事とは ② 看護における食事の位置付け 食事援助 (第2・3講 講義と演習) ① 食生活の基本的援助 ② 疾病・障害時の食事について ③ 疾病をもつ対象の食事援助の実際 ④ 摂食・嚥下障害のある対象の食事援助の実際 3. 排泄とは (第4講 講義) ① 排泄の意義 ② 排泄のメカニズム 健康な排泄状況 援助の基本姿勢 ③ おむつ体験レポート提起 4. 排泄の基本援助 (第5・6講 講義と演習) ① 観察とアセスメント ② 床上排泄の援助 5. 排泄機能の障害とその影響 (第7講 講義) ① 排尿障害と排便障害 ② 排泄障害の援助 6. おむつによる排泄援助 (第8・9講 講義と演習) ① 臥床患者のおむつ交換			看護師としての実践府踏まえて 食事のケアについて解説し、演習と講義で進める。 不安なく演習に臨めるように配慮する。 ・自宅でおむつ排泄体験をし、レポートに取り組み排泄援助を受ける側の気持ちと看護師のケアを考える機会とする。 ・演習時はスパッツを着用し援助を受ける患者を想定する。 ・尿器や便器に水を入れて飛散・感染予防の体験。模擬便を使いこびりつきや拭きとり時の皮膚への影響を考える。
《テキスト》 新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (メヂカルフレンド社)			
《評 価》 評価は筆記試験及びレポートで行う(60点以上を合格とする) 試験配点は活動休息 50 点、 <u>食事と排泄 50 点</u> (おむつ体験レポートを含む)			

科目	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護技術V (検査・処置にともなう援助技術)	1単位 30時間	1年後期	非常勤講師 感染管理認定看護師 木村 理恵・渋谷 美里
単元:感染防止技術 授業時間:14時間			
《学習目標》			
1. 感染防止における看護師の責務と役割を理解する。 2. 感染防止に必要な知識を習得する。 3. 手洗い、個人防護具の着脱、ガウンテクニックと無菌操作の技術を習得する。			
授 業 内 容			授 業 方 法
1. 総論 1) 感染症の歴史 <ul style="list-style-type: none"> ・人類と感染症のかかわり ・生物学の発展 ・感染防止技術のはじまり 2) 医療関連感染と医療者の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・微生物と人間のかかわり ・感染と感染成立の連鎖 ・医療関連感染とは ・感染防止のための医療者の役割 2. 各論 1) 感染予防の基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> ・スタンダードプリコーション ・感染経路別予防策 2) 器材の洗浄・消毒・滅菌 3) 隔離法 4) 感染性廃棄物の取り扱い 5) 療養環境の清潔保持 6) 針刺し・切創事故防止 3. 演習 1) 手洗い 2) 個人防護具の着脱 3) ガウンテクニック(演示) 4) 無菌操作 5) 創部の消毒法 演習 1) 手洗いについて <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて実験 を行う。 ・実験結果を話し合い模造 紙に記入する。 ・結果からわかった事と感 想を発表する。 演習 2)～5) については、演習までに自己学習し、当日自己チェック表に基づき確認する。			・一般病院において感染管理認定看護師として、病院内の医療関連サーベイランス、感染管理教育、コンサルテーションなど、感染防御に関する業務などの実務経験を基に、感染防止の実際と基本的な方法、感染管理について解説する。 ・実験、演習を取り入れる 実験：手指消毒 演習：1) 手洗い 2) 個人防護具の着脱 3) ガウンテクニック 4) 無菌操作 5) 創部の消毒法
《テキスト》			
新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I (メヂカルフレンド社) 新系統看護学講座 別巻 基礎看護学 臨床外科看護総論			
《評 価》			
評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする) 試験配点は感染防止技術 35 点、吸入(酸素・薬剤) 30 点、褥瘡 15 点、診療・検査時の看護 20 点			

科目	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護技術V (検査・処置にともなう援助技術)	1単位 30時間	1年後期	専任教員 看護師 吉田 文絵
単元:酸素・薬剤吸入 授業時間:6時間			
《学習目標》 1. 吸入の目的、原理・原則を理解する 2. 薬液(噴霧)吸入、酸素吸入が安全に、効果的に実施できる 3. パルスオキシメータの原理、測定方法を理解する			
授 業 内 容			授 業 方 法
<p>第1講 薬液吸入、酸素吸入を安全実施する</p> <p>1. 薬液吸入</p> <p>1) 吸入の目的、原理・原則</p> <p>2) 適応</p> <p>3) 吸入器のしくみと種類</p> <p>4) 吸入経路</p> <p>5) 安全に実施するための留意点</p> <p>① 薬剤準備－医師の指示に基づき6Rで実施</p> <p>② 呼吸の観察 吸入の前と後</p> <p>③ 体位と方法</p> <p>2. 酸素吸入について</p> <p>1) 生命活動と酸素</p> <p>2) 低酸素の症状観察</p> <p>3) パルスオキシメータの原理、酸素飽和度の測定方法</p> <p>4) 酸素療法の留意点と方法－医師の指示に基づき実施</p> <p>5) 酸素ポンベの点検と残量計算</p> <p>第2・3講</p> <p>オリエンテーション・演習後にグループに分かれ、下記のコーナーで演習を行う。7～8人でグループを作り、順次体験する</p> <p>①薬液吸入、②酸素吸入、③酸素吸入器具の点検と残量計算(酸素ポンベ)、④パルスオキシメータ測定と低酸素症状の観察</p>			<p>看護師としての実践を基盤に、臨床で行われる薬物吸入、酸素吸入に関する基礎知識を解説する。</p> <p>講義形式</p> <p>演習</p> <p>チェック表による確認</p>
《テキスト》 新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術II (メヂカルフレンド社)			
《評 価》 評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする) 試験配点は感染防止技術 35 点、吸入(酸素・薬剤) 30 点、薬法 15 点、診療・検査時の看護 20 点			

科目	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護技術V (検査・処置にともなう援助技術)	1単位 30時間	1年後期	専任教員 看護師 佐藤由香里
単元: 電法 授業時間: 6時間			
《学習目標》			
1. 自立的体温調節のしくみと生体の温熱及び寒冷刺激に対する反応が理解できる 2. 電法の目的・留意点が理解できる 3. 安全で効果的な電法の技術として獲得できる			
授 業 内 容			備 考
第1講 ・自立的体温調節のしくみ ・温熱・寒冷刺激に対する生体の反応 ・温電法・冷電法の目的と適応 ・電法施行時の注意事項と一般原則 第2講 演習:安全で効果的な温電法の実際 ① 湯たんぽ(ゴム製・プラスチック製)の演示 ② 湯たんぽの準備と貼用 第3講 演習:安全で効果的な冷電法の実際 ① 氷枕・氷のう・氷頸の演示 ② 氷枕・氷のうの準備と貼用			看護師としての経験を踏まえて、電法を安全に行うための基礎知識を解説する。 <講義> <演習> ・患者、看護師体験を全員行う ・看護師、患者役を体験する。
《テキスト》			
新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ(メヂカルフレンド社)			
《評 価》			
評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする)			
試験配点は感染防止技術 35点、吸入(酸素・薬剤) 30点、電法 15点、診療・検査時の看護 20点			

科目	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護技術Ⅴ (検査・処置にともなう援助技術) 単元: 診療・検査時の看護 授業時間: 4時間	1単位 30 時間	1年後期	副教務主任 看護師 久保田千香子
<p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 診療の過程と診療場面における看護師の役割を理解できる 2. 診療時に求められる援助について考えることができる 3. 検査の目的を理解できる 4. 検査における看護師の役割を理解できる 5. 検体を正しく扱うことができる 6. 穿刺の目的、実施上の原則を理解できる 			
授 業 内 容			授 業 方 法
<p>I. 診療時の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 診療の過程 2) 診察における看護の役割 3) 診察時の援助 <p>II. 検査時の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 検査場面における看護師の役割 2) 検査介助のポイント 3) 検査の方法と種類 4) 検体の採取とその取り扱い 5) 検査の介助 <ol style="list-style-type: none"> (1) X 線撮影 (2) CT (3) MRI (4) 内視鏡検査 (5) 超音波検査 (6) 穿刺 			<p>看護師としての実践を基盤に、診療の介助および検査時の看護について解説する。</p> <p>・講義ですすめる</p>
<p>《テキスト》</p> <p>新体系 看護学全書 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (メヂカルフレンド社) 実践するヘルスアセスメント 身体の構造と機能からアセスメントを導く 鎌倉 やよい(学研)</p>			
<p>《評 価》</p> <p>評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする)</p> <p>試験配点は感染防止技術 35 点、吸入(酸素・薬剤) 30 点、電法 15 点、<u>診療・検査時の看護 20 点</u></p>			

科目	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護技術VI (治療にともなう技術援助)	1単位 30 時間	2年前期	専任教員 看護師 佐々木栄理子 島山友里香 宇佐美麻理子
単元:薬物療法と看護 授業時間:24時間			
《学習目標》 薬物療法における看護師の役割を理解し、安全に与薬を実施するための基礎的知識、援助方法を習得する。			
授 業 内 容		授 業 方 法	
第1講:薬物療法総論 ・薬物療法の意義 ・薬物療法における看護師の役割 ・麻薬等の管理方法 第2. 3講:経口与薬の実施法 第4講:点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬 与薬の基礎知識と具体的方法 与薬の原則と注意事項 第5講:注射法総論 ・注射法の基礎知識 ・注射器・注射針・注射剤の取り扱いと準備 ・注射法の演習への向かい方について導入 ・皮内注射 第6講:注射剤の準備 第7講:皮下注射 第8講:皮下注射の実施法 ・筋肉内注射 第9講:筋肉内注射の実施法 第10講:静脈内注射 第11.12講:静脈内注射の実施法		講義 薬物取り扱い上の法的責任、作用および期待される効果の確認と副作用・異常の早期発見について、正確に与薬するための知識、薬物の正しい管理 ・講義、演示、演習 ・講義 ・演習:モデル人形に直腸内与薬を実施する ・講義 ・演示 ・演習: ・講義、演示 ・演習:皮下注射 ・演示:筋肉内注射* 第9講までに自己練習 ・演習:筋肉内注射 ・講義 ・演示:次回の静脈内注射演習の課題を提示 ・演習:モデル人形に静脈内注射を実施する	
《テキスト》 新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (メヂカルフレンド社)			
《評 価》 実技は演習でチェックリストを用いて確認。 評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする) 試験配点(薬物療法と看護 80点、静脈採血法 10点、輸血療法と看護 10点)80点の内訳:(薬物総論 20)(経口与薬 10)(注射総論 10)(皮内・皮下・筋肉・静脈 各 10)			

科目	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護技術VI (治療にともなう援助技術)	1単位 30時間	2年後期	副教務主任 看護師 菅原 奈津子
単元:静脈採血法 授業時間:6時間			
<p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 採血の目的を理解し、採血方法を選択できる 2. 静脈血採血、耳朶採血に必要な基礎的知識を習得できる 3. 静脈血採血の手技を習得できる 			
授 業 内 容		授 業 方 法	
<p>1講目 採血</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 血液検査の目的 (2) 血液検査の種類 (3) 血液検査の方法 (4) 静脈血採血時の留意点 <p>2講目 演習</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 静脈血採血の実際 (2) 耳朶採血の演示 		<p>演習と講義で進める</p> <p>講義終了後、採血ホルダーと採血針の装着、真空採血管の挿入についてモデルを用いて練習する</p> <p><演習方法></p> <p>1グループ3～4人</p> <p>採血モデルで練習後、担当教員の指導を受け、学生同士で採血を行う</p>	
<p>《テキスト》</p> <p>新体系 看護学全書 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術II (メヂカルフレンド社)</p>			
<p>《評 価》</p> <p>評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする)</p> <p>試験配点(静脈採血法 10点、薬物療法と看護 80点、輸血療法と看護 10点)</p>			

科目	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護技術VI (治療にともなう技術援助)	1単位 30 時間	2年後期	専任教員 看護師 吉田 文絵
単元:輸血療法と看護 授業時間:2時間			
<p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 輸血療法に必要な基礎的知識を習得する。 2. 輸血療法の特徴について理解する。 3. 輸血療法をしている患者への看護について理解する 			
授 業 内 容			授 業 方 法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 輸血療法とは 2. 輸血の目的・適応 3. 輸血の分類(全血輸血、成分輸血、自己血輸血) 4. 輸血の副作用 5. 輸血剤の種類・保存方法など 6. 輸血の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 輸血のための検査 (2) 輸血の実際と看護(安全に実施するために) <ol style="list-style-type: none"> ① 血液試験・交差適合試験 ② 実施時のダブルチェック ③ 患者の観察 			<p>・講義</p> <p>・ビデオ視聴</p> <p>実際の輸血療法のイメージを持ち、基礎となる知識の習得を目指す。</p>
<p>《テキスト》</p> <p>新体系 看護学全書 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (メヂカルフレンド社)</p> <p>新系統看護学講座 別巻 基礎看護学 臨床外科看護総論</p>			
<p>《評 価》</p> <p>評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする)</p> <p>試験配点(輸血療法と看護 10 点、薬物療法と看護 80 点、静脈採血法 10 点)</p>			

科目	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護技術Ⅶ (日常生活援助技術ゼミナール)	1単位 30時間	1年後期	専任教員 看護師 佐々木栄理子 島山 友里香
<p>《学習目的》 患者の要求に応えた安全で安楽な基礎看護技術を実践できる基礎力を養う</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 設定事例に応じた適切な方法で基礎看護技術を実施できる 2. ゼミナールを通して、安全で安楽な基礎看護技術について考えることができる 3. グループ・クラス・学年のなかで、相互に学び合うことができる 			
授 業 内 容			
<p>授業方法 演習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グループに指定された課題テーマの設定事例に応じた安全・安楽な看護技術について、グループでの討議・演習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1グループが1課題テーマ、2事例を担当する。 ・ 課題テーマの看護技術の原則や留意点を復習し、基本的な技術を習得する。 ・ 設定事例にとって安全・安楽に実践するために必要な学習を行い、留意点・方法(手順)・根拠について演習を通してグループ討議し決定していく。 2) 自分で学習したこと、毎回のグループワークでの討議内容や確認した方法・根拠・留意事項について、ノートと「技術カード」に各自整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ノートについては、看護技術を実践するために必要な学習や、グループワークでの討議を整理する。また、演習を進めるうえで、あらたに必要な学習も追加整理していく。 ・ 技術カードについては、事例ごとに実施する看護技術の目的・必要物品・実施方法・留意点を「No.1」に記入する。また、演習後の振り返りは、毎回「No.2」に記入する。 ・ ノートと技術カードの提出日(期日厳守) <ol style="list-style-type: none"> 1回目 プレ発表後 ()月()日 2回目 ゼミナール終了後 ()月()日 3) 演習での討議・内容は、交代で「グループワーク記録用紙」に記入し、毎回提出する 4) リーダー会議(課題テーマごと)を学年合同で行い、学びを交流する。 5) ゼミナールは両クラス合同で実施し、一人ずつ課題テーマ(指定された事例)について発表する <ul style="list-style-type: none"> * 各自の担当事例はゼミナール1週間 ()月()日 に提示する 			
<p>《評価方法》</p> <p>認定は、A(80点以上) B(70～79点) C(60～69点) D(60点未満) の4段階評価で行う。</p> <p>評価は、課題テーマ(設定事例)の看護技術を基本とし、演習への参加状況、個人ノート、ゼミナールへの参加状況から総合評価する。</p>			

科目	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護技術Ⅷ (看護過程の展開)	1単位 15時間	2年前期	専任教員 看護師 畠山友里香
<p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の意義を理解する。 2. 看護過程の構成要素を理解する。 3. 模擬事例においてアセスメント、看護問題の明確化、看護計画立案を展開できる。 			
授 業 内 容			授 業 方 法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程とは <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護過程の意義 (2) 看護過程の構成要素 (3) 看護過程の実際1 ～ 1次アセスメント <ol style="list-style-type: none"> ① アセスメントとは ② アセスメントの視点「人間とは」「生活」「病態」 ③ 情報収集とアセスメント(方法、分類、分析・解釈) 2. 看護問題の明確化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護問題の明確化とは (2) 問題の根拠の整理 (3) 優先度の決定 3. 看護計画立案 <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護目標と予測される結果の設定 (2) 達成期日の設定 (3) 計画の具体化 4. 計画立案の実際 5. 看護の実施と評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護の実施 (2) 評価の視点 			<p>講義形式で進める</p> <p>模擬事例を設定し、看護過程に沿って、課題を提起し、個人学習を基礎に進める</p>
<p>《テキスト》</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[4] 臨床看護総論 新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ (メヂカルフレンド社)</p> <p>《参考図書》</p> <p>看護診断のためのよくわかる中範囲理論 (Gakken)</p>			
<p>《評 価》</p> <p>評価は60点以上を合格とする 配点は提出物(30%)、筆記試験(70%)として総合評価する</p>			

科目	単位数	授業時期	担当講師
臨床看護総論 I 単元: 慢性期の看護過程の展開 授業時間:10 時間	1単位 30 時間	2年前期	教務主任 看護師 花田未希子
<p>《学習目標》 慢性期にある対象の看護過程の特徴を理解する。</p>			
授 業 内 容			授 業 方 法
<p>1. 慢性疾患を持つ対象の看護 1) 慢性期とは、慢性疾患とは 2) 慢性期にある対象の看護に求められる視点 3) 慢性疾患の一般的特質 4) 自己管理行動とその援助 5) 家族の役割と家族への援助</p> <p>2. 慢性期にある対象の看護過程 模擬事例による看護過程の実際</p>			<p>・一般病院の内科病棟、診療所外来での看護師として実践を基盤に、生活習慣病（糖尿病）の模擬事例を用いて、看護過程にそって演習を取り入れながら進める。</p> <p>適宜、個別課題を提起する</p>
<p>《テキスト》 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[4] 臨床看護総論</p> <p>《参考図書》 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 (Gakken) 系統看護学講座 成人看護学[6]内分泌・代謝 糖尿病食事療法のための食品交換表 最新版 (文光堂)</p>			
<p>《評 価》 認定は筆記試験と提出物にて行う(60点以上を合格とする) 試験配点(急性期看護過程 30 点、慢性期看護過程 30 点、終末期看護過程 40 点)</p>			

科目	単位数	授業時期	担当講師
臨床看護総論 I 单元: 急性期の看護過程の展開 授業時間:10 時間	1単位 30 時間	2年前期	副教務主任 看護師 菅原 奈津子
<p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 急性期の概念と身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 周手術期の看護の目的を理解する。 周手術期の看護過程の展開が事例を通して理解できる。 			
授 業 内 容			授 業 方 法
<ol style="list-style-type: none"> 急性期及び急性期看護の概念とその特徴 <ol style="list-style-type: none"> 急性期にある対象の身体的特徴 急性期にある対象と家族の心理的・社会的特徴 急性期看護を展開する場(集中治療室を中心として)と看護の役割 急性期にある対象の生理的反応と全身管理に必要なアセスメントの視点 急性期にある対象の回復への援助 周手術期(手術前)の看護過程の展開 <ol style="list-style-type: none"> 術前のアセスメントの方法 術前の看護問題と計画の立案 周手術期(手術直後)の看護過程の展開 <ol style="list-style-type: none"> 術直後のアセスメントの方法(模擬事例を用いる) 術直後の看護問題と計画の立案 手術後の看護計画立案の実際 			<ul style="list-style-type: none"> 一般病院の看護師としての実践を基盤に、周手術期の模擬事例を用いて、看護過程にそって演習を取り入れながら進める。 事前学習課題を提示する ①手術侵襲とは何か、②手術後合併症とその予防 ③手術後合併症のアセスメントに必要な検査データとその意味 ④早期離床の意義 ⑤創傷の回復段階と看護援助
<p>《テキスト》</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[4] 臨床看護総論</p>			
<p>《評 価》</p> <p>評価は筆記試験(こて行う (60点以上を合格とする) 試験配点(急性期看護過程 30 点、慢性期看護過程 30 点、終末期看護過程 40 点)</p>			

科目	単位数	授業時期	担当講師
臨床看護総論 I	1単位 30 時間	2年後期	非常勤講師 緩和ケア認定看護師 安藤 留美
単元: 終末期の看護過程の展開 授業時間:10 時間			
《学習目標》 1.がんを取り巻く医療・看護の動向を理解する 2.症状緩和のためのトータルペインの概念を理解した看護師の役割を考えることができる 3.終末期にある患者・家族への看護援助について理解を深める			
授 業 内 容			授 業 方 法
<p>I. 第 1 回 日本におけるがん医療・看護の歩み</p> <p>1)がん患者の身体、心理、精神、スピリチュアルな特徴</p> <p>2)緩和ケアの歴史</p> <p>3)がん看護のチームアプローチ 第 5 回目の演習の説明、グループ分け、テーマ選択、資料提示</p> <p>II. 第 2 回目 症状マネジメント</p> <p>1)症状マネジメントの重要概念</p> <p>2)緩和ケアの概念、トータルペインの理解</p> <p>III. 第 3 回目 症状マネジメント</p> <p>1)疼痛</p> <p>2)倦怠感</p> <p>3)呼吸困難感</p> <p>4)食欲不振</p> <p>IV. 第 4 回目 臨死期における家族の援助</p> <p>1)グリーフケアとしてのエンゼルケア</p> <p>V. 第 5 回目 演習</p> <p>1)各グループ発表、10 分＋質問感想3分</p> <p>2)最期に講師から「終末期患者家族の希望を支える事、ケアの実際について 症例提示」</p> <p>3)講義まとめ</p>			<p>・一般病院のホスピスケア 病棟に緩和ケア認定看護師 として勤務し、病院内の緩和 ケアに関連するコンサル テーションや研修企画を行 っている。</p> <p>その経験に基づいて、終末 期看護の基本について解説 するとともに、がん患者の 模擬事例を用いてロールプ レイ実施する</p> <p>エンゼルケアはビデオ視聴 ＋講義</p>
《テキスト》新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I (メヂカルフレンド社) 系統看護学講座 別巻 緩和ケア			
《評 価》 評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする) 試験配点(急性期看護過程 30 点、慢性期看護過程 30 点、 <u>終末期看護過程 40 点</u>)			

科目	単位数	授業時期	担当講師
臨床看護総論Ⅱ (医療機器と看護)	1単位 15時間	2年後期	専任教員 看護師 佐々木栄理子
単元:人工呼吸器の管理 授業時間:6時間			
《学習目標》			
1. 人工呼吸器の原理・機能・適応基準について理解する。 2. 人工呼吸器装着中の患者の看護について理解する。 3. 吸引の目的を理解し、効果的かつ安全に実施するための技術を学ぶ。			
授 業 内 容			授 業 方 法
1. 人工呼吸器の管理 1) 人工呼吸療法の目的・方法・適応基準 2) 人工呼吸が生体に及ぼす影響 3) 人工呼吸器の原理・構造 4) 人工呼吸器を装着する患者の看護 2. 一時的吸引 1) 一時的吸引の目的・適応・種類 2) 一時的吸引の原理と装置 3) 気管内吸引法について 4) 吸引の必要性の判断および援助の過程 5) 吸引に伴う合併症 6) 吸引の留意点 3. 気管内吸引の実施(演習) <演習目標> 口腔内および気管内吸引の目的を理解し、安全、安楽に実施するための技術を学ぶ。 <演習内容> 気管内挿管患者の気道内分泌物を除去し、気道を確保する。 (口腔・気管内吸引)			講義と演習で進める ・DVD 学習 ・授業資料使用 ・授業資料使用 演習 ・気管内吸引の対象はモデル人形とする
《テキスト》			
・新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (メヂカルフレンド社) ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 呼吸器			
《評 価》			
評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする) 試験配点(輸液ポンプ 40点、人工呼吸器 30点、心電図 30点)			

科目	単位数	授業時期	担当講師
臨床看護総論Ⅱ (医療機器と看護) 単元:輸液管理(輸液ポンプ) 授業時間:6時間	1単位 15 時間	2年後期	専任教員 看護師 佐藤 由香里
《学習目標》			
1. 輸液療法に必要な基礎的知識を習得する 2. 輸液療法の特徴について理解する 3. 輸液療法をしている患者への看護について理解する 4. 輸液ポンプの原理・機能・適応について理解する 5. 輸液ポンプを使用する患者の看護について理解する			
授 業 内 容			授 業 方 法
1. 輸液療法 1) 輸液療法とは 2) 輸液療法の目的・適応・特徴 3) 輸液の投与方法(末梢静脈輸液・中心静脈輸液) 4) 輸液製剤の種類と特徴 2. 輸液の管理と輸液療法時の看護 1) 輸液に用いられる器具(注射針、カテーテル、輸液セット、三方活栓など) 2) 輸液の滴下管理 3) 輸液管理の実際(開始から終了まで) 4) 輸液中における日常生活の援助 5) 滴下速度の計算と調節などを体験する。 3. 輸液ポンプの管理 1) 輸液ポンプの使用意義 2) 輸液ポンプの種類と適応 3) 輸液ポンプの構造 4) 輸液ポンプ施行の実際と看護 5) 取り扱う上での注意事項 6) 輸液ポンプ使用中に起こりやすいトラブルと対処 4. 輸液管理の実際と輸液ポンプの使用方法(演示と演習)			授業4時間 演習2時間 ・人間の体液の分布や、働きなどを復習する ・輸液の濃度やカロリー計算 ・器具の特徴と使用する上での留意点を理解する ・滴下速度の計算方法 ・医師の指示から輸液終了までの管理 ・DVD (静脈注射をより安全・確実にVol.2) ・滴下計算と滴下の実際について演習。 ・実際に輸液ポンプを使用する
《テキスト》			
新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ(メヂカルフレンド社)			
《評 価》			
評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする)			
試験配点(輸液ポンプ40点、人工呼吸器30点、心電図30点)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護学実習 I	1単位 45時間	1年前期	専任教員 看護師 伊達 深晴 畠山友里香
<p>1. 実習目的 看護の対象である患者を理解し、看護実践の基礎となる知識・技術を習得する。</p> <p>2. 実習目標</p> <p>1) 看護の対象である患者を理解する必要性と、その方法について学ぶ。 ①患者がどのような入院生活を送っているかを理解し、適切な入院環境について考える。 ②病気が日常生活に及ぼす影響について知る。 ③患者の医療や看護への願いや期待を知る。</p> <p>2) 学内で学んだ看護技術を、指導を受けながら安全・安楽に実施する。 ①バイタルサインを正確に観察する。またその結果が正常か異常かについて考える。 ②患者の安全・安楽に留意して日常生活の援助技術(環境整備・保清)を実施する。移動は見学のみとする。 ③患者とのコミュニケーションがとれる。 ④観察したことや実施したことを報告、記録する。</p> <p>3) 実習を通して、看護について考える。</p> <p>4) 患者の医療を受ける権利を保障する立場から一切の贈り物を受け取らない。</p>			
授 業 内 容 と 方 法			
<p>実習方法</p> <p>1) ペアまたは一人で一部屋を受け持ち、主に関わる事例を設定する。 2) 患者の療養の場である病棟の構造、設備について確認する。 3) 患者の病気や治療、看護を実践する上での注意点などについて指導者から説明を受ける。 4) 毎朝、担当看護師と打ち合わせし、看護師の指導援助のもとで患者さんと関わる。患者情報紙に整理する。 5) 病室の環境整備を毎日実施する。 6) 受け持ち患者および同室者のバイタルサインの観察を毎日実施する。 7) 看護技術で実践したこと、観察したことを正確に報告する。 8) 看護技術の実施は、患者の安全を最優先し、医療事故を予防する視点から段階を踏んで実施する。 9) 経過観察表の見方について学び、実習用経過観察表に記録し、学生個人の実習ノートに綴る。 10) 日々の実習内容や学習したことを毎日実習ノートに整理し、必要時指導を受ける。 11) 実践を交流するために、指導者の援助を受けカンファレンスを行う。また、実習終了時の総括カンファレンスは、実習目標を振り返り、学びを整理して臨む。 12) 事例は実習終了後、各自で実習レポートにまとめ、クラスゼミナールで発表し学び合う。</p>			
<p>《評価》 下記のC評価以上を合格とする A: (80点以上) B: (70～79点) C: (60～69点) D: (60点未満)</p>			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
基礎看護学実習 II	2単位 90時間	1年後期	専任教員 看護師 伊達 深晴 畠山友里香
<p>1. 実習目的 看護の対象である患者を理解し、看護実践の基礎となる知識・技術を習得する。</p> <p>2. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 病気が患者にどのような影響を及ぼしているかを理解する。 2) 患者が受けている治療について理解する。 3) 患者に行われている看護援助について理解する。 4) 患者に必要な看護援助を、指導を受けながら安全・安楽に実施する。 5) 患者は、医療や看護に対してどのような願いや期待をもっているかを学ぶ。 6) 実習を通して、看護について考える機会とする。 7) ペアやグループの中で自分の考えや意見を述べ、学び合うことができる。 8) 患者の医療を受ける権利を保障する立場から一切の贈り物を受け取らない。 			
授 業 内 容 と 方 法			
<p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ペアまたは一人で事例を受け持つ。 2) 臨床指導者からオリエンテーションを受ける 3) 実習は毎日、行動計画を立て実施する。 4) 看護技術の実施に段階を踏んで安全留意する 5) 受け持ち患者と同室患者のバイタルサインの測定、環境整備は毎日実施する。 6) バイタルサインの測定結果は、経過観察表に記載し、報告する。 7) 毎日、実習終了前に行動計画を振り返り、実習内容について報告をする。 8) 事例の現在の病状、治療方針について医師や臨床指導者から臨床講義を受ける。 9) 実習2週目に受け持ち患者についての事例紹介を行い、グループ全体で学び合う。 10) 毎日実習ノートを整理する。、実習終了後提出する。 11) 看護実践を交流するために、指導者の援助を受けカンファレンスを行う。 12) 電子カルテの閲覧について必要時は教員 または指導者とともに閲覧する。 13) 実習中のヒヤリ・ハット体験は、すぐに臨床指導者や教員に報告し、適切な対応を行う。 14) 実習終了時の総括カンファレンスは、実習目標を振り返り、学びを整理して臨む。 15) 事例は実習終了後、各自でケースレポートにまとめ、ゼミナールで発表し学び合う。 			
<p>《評価》 下記のC評価以上を合格とする A: (80点以上) B: (70～79点) C: (60～69点) D: (60点未満)</p>			

専門分野Ⅱ

＜成人看護学＞ 6単位

成人看護学は、人生の大半時期にあたり、社会的にも重要な役割を持つ人々を対象とする看護学を学ぶ領域である。

成長、成熟、老化の過程にある成人期の健康に関する課題は多く、対象の健康問題を総合的にとらえる視点が求められ、成人期の健康の維持増進、疾病予防、健康レベルの回復、終末期にかかわる看護師の役割は大きい。さらに、成人看護学で学ぶ知識と技術が、健康課題をもつ人々の看護の基礎として、他の領域の看護学にも活用される。

各論の科目設定に当たっては「主要な疾患を持つ患者の看護」を中心に、症状別、治療別看護を学び、看護に必要な知識・技術を学ぶ内容とした。

＜老年看護学＞ 4単位

老年期にある対象(高齢者)は、人生において豊かな体験を持ち、社会を支えてきた存在として尊重されると同時に加齢によるさまざまな生理的変化による健康問題をかかえるという側面を持つ。高齢者の看護は、その特性をふまえて、人権が擁護され、自立した生活が送れるように支援することが重要である。

老年看護学においては、高齢者の身体的特徴(加齢に伴う生理的変化)について科学的にとらえるとともに、高齢者の健康障害の特徴をふまえた看護を学ぶ内容とする。同時に、わが国の高齢者の保健・医療・福祉の状況をふまえ、高齢者が健やかに生活できるように、社会保障、福祉制度についての理解と、マネジメントの役割についても学ぶ内容とする。

＜小児看護学＞ 4単位

小児看護は、小児の健全な発達をめざして、発達段階をふまえたかわり、小児をめぐる社会、家族の状況を視野に入れて、疾病や障害をもつ小児と家族を支援することが求められる。

科目設定に当たっては、家族の変化や小児をめぐる社会的課題にも目を向けながら、対象理解と看護の役割、小児保健の役割を学ぶとともに、小児の病態を科学的にとらえ、健康回復を支援する看護を学ぶ内容とする。

＜母性看護学＞ 4単位

母性看護学は、看護の対象である人間を母性の側面からとらえ、成熟期母性の周産期の生理的現象を中心に、次代の新しい生命を生み育てる人々を援助することを目的としている看護学である。母性の特性を身体的、精神的、社会的に認識し、広く母性の一生を通じて健康に影響を及ぼす諸因子について考察しかつ新生児および母子関係についても学習できるようにする。

＜精神看護学＞ 4単位

現代社会は、不安定な雇用形態の増加と労働の過密化の進行、教育における競争の激化といじめ問題など、メンタルヘルスの課題はあらゆるライフサイクルにある人々に起こりうる課題である。

精神看護学は、精神障害者の看護だけではなく、心の問題をかかえる人々の支援、心の健康を維持することを支援する看護学である。現代社会に生活している人々がかかえる心の問題を明らかにし、心の健康維持増進のための援助、こころの問題を抱える人々、精神障害者や家族に対する援助を学ぶ内容とする。

＜臨地実習＞ 16単位 対象の発達過程の特徴と各分野の学びを統合し対象をとらえ、看護する力を身につけるとともに、対象の基本的な人権を護る看護の役割を学ぶ。

科目	単位数	授業時期	担当講師
成人看護学総論	1単位 30時間	1年後期	専任教員 看護師 伊藤 保恵・ 畠山 友里香
《学習目標》			
1. 成人期にある対象の特徴を理解し、看護の役割を学ぶ 2. 成人期の生活と健康問題を理解し、健康の保持増進・疾病予防のための看護の役割を学ぶ			
授 業 内 容			授業方法
I. 成人看護の対象を理解する 1) 成人とは 2) 成人期の区分 人間の成長発達と成人期 発達理論(エリクソン、ハヴィガースト、レビンソン) 3) 成人の役割 家族・社会における役割 II. 成人期にある対象の生活と健康問題を理解する 1) 成人各期の特徴と保健問題 ① 各期の身体的・心理・社会的特徴 ② 各期の保健問題 2) 成人保健の動向と対策 ① 人口構成 ② 平均寿命 ③ 死亡の動向 (主要死因の変遷、死因の動向など) ④ 疾病の動向 (有訴者率、通院者率、受療率など) III. 健康の保持増進と疾病予防の為の保健医療活動を理解する 1) 成人に関連する健康障害と予防 ① 健康づくり対策(健康日本21(2次)など) ② 生活習慣病対策 ③ 疾患対策など 2) 職業に関連する健康障害と予防 ① 労働災害 ② 生活習慣病と労働環境・労働条件 ③ 労働者の健康対策 IV. 成人期の対象の健康障害にたいする看護の役割 1) 成人の特性や能力に応じたアプローチ 2) 健康障害をもつ成人の看護 ① 急性期にある成人患者の看護 ② 慢性期にある成人患者の看護 ④ 終末期にある成人患者の看護			講義形式で進める Iでは、大人とは、大人として生活することについて学習する。 また、青年期である自分自身が社会に出る前後の過渡期にあり、様々な壁にぶつかりつつも乗り越えていくということを、発達理論と重ねて学ぶ機会とする。 IVではストレスとコーピング、危機理論、自己効力、セルフケア能力を高めるアプローチなども紹介。急性期・慢性期・終末期にある患者の理解と看護の視点の概要を導入する。
《テキスト》			
新体系 看護学全書 成人看護学① 成人看護学概論 成人保健			
《評 価》			
評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする)			

科目	単位数	授業時期	担当講師
成人看護学各論 I (消化器、呼吸器、循環器に 疾患・障害を持つ対象の看護)	1単位 30 時間	1年後期	非常勤講師 単元1 看護師 志田 ゆかり 単元2 慢性呼吸器疾患看護認定看護師 大方 葉子 単元3 看護師 石井 ひづる
《学習目標》 消化器、呼吸器、循環器に疾患・障害を持つ対象への看護活動を学ぶ			
授 業 内 容			授 業 方 法
【単元 1】 摂食障害・消化吸収障害・排泄障害のある患者の看護 (10 時間) 1) 摂食・消化吸収・排泄障害患者の症状観察と看護 ① 歯・舌・口腔・咽頭・喉頭の観察 ② 腹部・身体所見の観察法・排泄物の観察 咀嚼・嚥下障害・腹痛・嘔吐・下痢・便秘・下血、胆汁瘻 黄疸・腹水・肝性昏睡・吐血・腹部膨満・肝性脳症 2) 摂食・消化吸収・排泄障害患者の検査時の看護 ① 経管栄養・胃管挿入・内視鏡・造影検査・肝生検 3) 摂食・消化吸収・排泄障害患者治療・処置時の看護 ① TAE・EIS・PTCD他ドレーン管理・バリックス破裂予防と対応 4) 摂食・消化吸収・排泄障害患者の看護 ① 胃十二指腸潰瘍・胃癌・大腸癌・食道癌・イレウス 腸管出血性大腸炎・ウイルス性肝炎・肝硬変・肝臓癌 5) 事例の看護展開: 大腸癌患者の看護展開 【単元 2】 呼吸器系に障害のある患者の看護 (10 時間) 1) 呼吸器障害患者の症状観察と看護 呼吸器障害患者検査時の看護 喀痰検査・呼吸機能検査・血液ガス分析・胸腔穿刺・ 2) 呼吸器障害患者の治療・処置に伴う看護 吸入・吸引・気管切開・人工呼吸器・酸素療法・胸腔ドレナージ 薬物治療、肺理学療法・放射線療法 3) 呼吸器障害患者の看護: 看護展開: 慢性呼吸不全 【単元 3】 循環器系に障害のある患者の看護を学ぶ (10 時間) 1) 急性・慢性循環不全症状の観察と看護 不整脈・胸痛・浮腫、血圧上昇・低下、チアノーゼ・ショック、脱水 2) 循環器障害患者の検査時の看護 EKG・CVP・モニター・心臓カテーテル・造影検査 3) 循環器障害患者の治療・処置時の看護 薬物療法・輸液療法・心臓リハビリ・PPM 挿入・救急蘇生 4) 循環器障害患者の看護展開: 心筋梗塞(急性)・心不全患者の看護展開			・講義を中心に進める ・一般病院の内科病棟での看護実践を踏まえて、摂食・消化吸収・排泄障害患者の看護について基礎知識と、大腸がんの模擬事例を用いた看護過程の展開について解説する。 ・一般病院において慢性呼吸器疾患看護認定看護師として、RST(呼吸ケアサポートチーム)活動を通じて、人工呼吸器装着患者の個別性を重視したケア提供の実践を踏まえて、呼吸器系に障害のある患者の看護について、基礎知識と、慢性呼吸不全の模擬事例を用いて、看護過程の展開について解説する。 ・一般病院の内科病棟での看護実践を踏まえて、循環器系に障害のある患者の看護について基礎知識と、急性心筋梗塞、心不全の模擬事例を用いた看護過程の展開について解説する。
《テキスト》 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 / [2] 呼吸器 / [3] 循環器			
《評価》 評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする) 配点は消化器看護 30 点 呼吸器看護 30 点 循環器看護 40 点			

科目	単位数	授業時期	担当講師
成人看護学各論Ⅱ (造血器、腎・内分泌、免疫に疾患・ 障害をもつ対象の看護)	1単位 30時間	1年後期	非常勤講師 単元1 看護師 河上 恵子 単元2 看護師 宮田 麻紀子 単元3 看護師 蝦名 百恵 単元4 糖尿病看護認定看護師 笹川 恭子
《学習目標》 造血器、腎・内分泌疾、免疫に疾患・障害をもつ対象の看護活動を学ぶ。			
授 業 内 容			授 業 方 法
<p>【単元1】 造血機能障害患者の看護を学ぶ (6時間)</p> <p>1) 造血機能障害の症状観察と看護 出血傾向・貧血・めまい・発熱・紫斑・出血斑・リンパ腫脹</p> <p>2) 造血機能障害の検査時の看護 : 骨髄穿刺</p> <p>3) 造血機能障害患者の治療・処置時の看護 造血機能障害患者の看護:看護展開～白血病、悪性リンパ腫</p> <p>4) HIV 感染症/AIDS の生活指導</p> <p>【単元2】 アレルギー・膠原病疾患の看護を学ぶ (6時間)</p> <p>1) アレルギー・膠原病・の主要症状観察と看護 皮膚・関節・筋症状②レイノー症状</p> <p>2) アレルギー・膠原病疾患の検査と診断 アレルギー: 膠原病～: RA・SLE・動脈炎・シェーグレン</p> <p>4) 看護展開: 膠原病～ステロイド療法時の看護</p> <p>【単元3】 腎機能障害のある患者の看護を学ぶ (10時間)</p> <p>1) 機能障害患者の主要症状観察と看護 浮腫・排尿障害・タンパク尿・血尿・尿毒症症状</p> <p>2) 腎障害患者の機能検査時の看護 腎機能検査(血液・尿・エコー)・腎生検・一般尿検査</p> <p>3) 腎機能障害患者の治療・処置時の看護 導尿・留置カテーテル・人工透析療法・食事・薬物療法</p> <p>4) 腎機能障害患者の看護展開:腎不全・腎炎・ネフローゼ</p> <p>【単元4】 内分泌・代謝障害のある患者の看護 (8時間)</p> <p>1) 糖代謝・内分泌障害患者の症状観察と看護 口渇・多飲・多尿・血糖値・低血糖症状・倦怠感・浮腫・テタニー</p> <p>2) 糖代謝・内分泌障害患者の検査処置時の看護</p> <p>3) 糖代謝・内分泌障害患者の治療と看護 インスリン注射と薬物・薬物・食事療法</p> <p>4) 内分泌・代謝障害患者の看護 糖尿病・甲状腺機能低下・亢進症・高脂血症</p>			<p>講義形式で進める</p> <p>・一般病院の内科病棟での看護実践を踏まえて、造血機能障害患者の看護について基礎知識と、白血病、悪性リンパ腫の模擬事例を用いて看護過程の展開について解説する。</p> <p>・一般病院の内科病棟での看護師としての実践を踏まえて、アレルギー・膠原病疾患患者の看護について基礎知識と、膠原病～ステロイド療法時の模擬事例を用いて看護過程について解説する。</p> <p>また、アレルギー諸症状の発現時の看護について、臨床での看護実践を踏まえて解説する。</p> <p>・一般病院の内科病棟での実践を踏まえて、腎機能障害のある患者の看護の看護について基礎知識と、腎不全・腎炎・ネフローゼの事例を用いて看護展開について解説する。</p> <p>・一般病院の糖尿病看護認定看護師としての実践を踏まえて、内分泌・代謝障害のある患者の看護について基礎知識と、糖尿病・甲状腺機能低下・亢進症・高脂血症の事例を用いて看護展開について解説する。</p>
《テキスト》 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器 / [11] アレルギー 膠原病 感染症 / [8] 腎・泌尿器 / [6] 内分泌・代謝			
《評 価》 評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする) 配点(造血器看護 20 点、アレルギー膠原病看護 20 点、腎・泌尿器看護 30 点、内分泌・代謝看護 30 点)			

科目	単位数	授業時期	担当講師
成人看護学各論Ⅲ (運動器に疾患・障害をもつ対象の看護)	1単位 30時間	2年前期	非常勤講師 単元1 医師 中田 幸夫 単元2看護師 宮田 麻紀子
《学習目標》 運動器に疾患・障害をもつ対象の看護活動を学ぶ。			
授 業 内 容			授 業 方 法
<p>【単元1】 運動機能に障害がある人の診断と治療を理解する (16 時間)</p> <p>1) 主要疾患の症状について理解する。 関節痛・関節拘縮・腰痛・運動機能障害・知覚障害・可動域制限</p> <p>2) 検査・診断法について理解する 関節鏡・造影検査</p> <p>3) 主な治療法について理解する ギブス固定・牽引・穿刺法・手術療法</p> <p>【単元2】 運動機能に障害がある人の看護の役割を学ぶ (14 時間)</p> <p>1) 主要症状観察と苦痛緩和 疼痛 変形・拘縮 運動障害 知覚障害</p> <p>2) 検査・治療時の看護 EMG ROM ギブス固定・牽引 手術療法 関節可動域 筋力、四肢長測定 脊随損傷による排尿障害援助 包帯法</p> <p>3) 看護過程の展開</p>			<p>・授業を中心に進める</p> <p>・次回の授業で取り扱うテーマを事前に調べて発表を行う。</p> <p>・授業毎に形成テストを行う。</p> <p>・授業を中心に進める</p> <p>・包帯法については演習を行う。典型的な包帯法を2人一組で実施。</p>
《テキスト》 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [10] 運動器疾患 新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (メヂカルフレンド社)			
《評 価》 評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする) 試験配点(運動器疾患 50 点、運動器疾患看護 50 点)			

科目	単位数	授業時期	担当講師
成人看護学各論Ⅳ (感覚器、脳神経に疾患・障害をもつ対象の看護)	1単位 30時間	2年次	非常勤講師 単元1 看護師 森田 奈緒子・入澤きぬ 単元2 看護師 岸本恵子・島垣陽子 単元3 佐々木咲江 単元4 歯科衛生士 吉村由美子 単元5 認知症看護認定看護師 澤野亜矢子 看護師 村上文恵
《学習目標》 感覚器、脳神経に疾患・障害をもつ対象の看護活動を学ぶ。			
授 業 内 容			授業方法
<p>【単元1】 皮膚障害がある患者の看護の役割を学ぶ (4時間)</p> <p>1) 皮膚症状の観察と看護 2) 検査・処置・治療時の看護:生検、軟膏塗布 3) 皮膚疾患患者の看護と日常生活援助:スキンケア</p> <p>【単元2】 聴力障害がある患者の看護の役割を学ぶ (6時間)</p> <p>1) 主症状の観察と苦痛緩和・日常生活への看護 耳鳴り、耳痛、難聴、眩暈、臭覚障害、 2) 検査・処置・治療時の看護:聴力検査・平衡機能検査・ 副鼻腔検査、レントゲン検査・点鼻・鼻吸入・点耳・手術療法 3) 聴力障害患者の看護と日常生活援助</p> <p>【単元3】 視力障害がある患者の看護の役割を学ぶ (6時間)</p> <p>1) 主要症状の観察と苦痛の緩和～視力障害、眼底出血、眼痛、頭痛、吐気、嘔吐 2) 検査・治療時の看護:眼底・視力・視野・眼球運動機能検査、 点眼、光凝固・硝子体手術・角膜移植 3) 視力障害患者の生活指導と看護 4) 手術前後の看護</p> <p>【単元4】 歯・口腔機能に障害の観察と悪化の予防方法を学ぶ (4時間)</p> <p>1) 主症状の観察～ 開口・咀嚼・味覚・嚥下障害、齲歯、炎症、 2) 口腔障害の改善と悪化の予防について学ぶ 3) 口腔ケアの方法・義歯の取り扱い</p> <p>【単元5】 脳神経疾患に疾患・障害がある患者の看護 (10時間)</p> <p>1) 脳血管疾患急性期の看護(脳梗塞、脳出血) 2) パーキンソン病患者の看護 3) 脊髄小脳変性症・多発性硬化症患者の看護</p>			講義を中心に進める
《テキスト》 系統看護学講座 専門分野Ⅱ [12] 皮膚 / [14] 耳鼻咽喉 / [13] 眼 / [15] 歯科・口腔 / [7] 脳・神経			
《評価》 評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする) 配点(皮膚科看護 20点、耳鼻科看護 20点、眼科看護 20点、脳神経看護 40点)			

科目	単位数	授業時期	担当講師
成人看護学各論Ⅴ (手術療法を受ける対象の看護)	1単位 30時間	2年前期	非常勤講師 単元1 看護師 大内市枝 単元2 看護師 岡崎章江、皮膚・排泄ケア認定看護師 大関亜樹子 がん化学療法認定看護師 岡本麻子 単元3 看護師 岸野紗保里 単元5 手術看護認定看護師 本間一昭、看護師 平田理香子 専任教員 単元4 看護師 佐藤幸子
《学習目標》 手術療法を受ける対象への看護活動を学ぶ			
授 業 内 容			授 業 方 法
【単元1】 周手術期患者の看護を学ぶ (外科看護総論) (6時間) 1) 手術を受ける患者の全身管理の重要性を理解する 2) 手術前後の観察と管理について学ぶ 術前の準備・創傷管理・疼痛管理・術後合併症の予防 手術療法を受ける対象の心理 【単元2】 周手術期看護(1) 消化器手術患者の看護 (6時間) 1) 手術前後の観察と看護 2) 合併症予防:排痰援助・ドレナージと薬液管理・イレウス予防 3) 早期回復の援助:疼痛・苦痛緩和 4) 術後機能障害と日常生活復帰への援助 5) 看護展開:胃癌患者の手術前後の看護 【単元3】 周手術期看護(2) 循環器・胸部・乳腺・甲状腺疾患手術患者の看護 (4時間) 1) 胸部手術の特徴 2) ドレナージ管理の基礎 3) 甲状腺・肺の手術看護とドレーン管理 4) 看護展開:乳ガン患者の手術前後の看護 【単元4】 周手術期看護(3) 脳神経外科疾患の手術療法を受ける患者の看護 1) 手術前後の観察と看護:意識障害、運動・知覚・言語障害など 2) 手術後合併症予防:ドレーン管理、観察 3) 早期回復への援助 4) 看護展開 : くも膜下出血患者の手術前後の看護 【単元5】 手術療法を受ける患者の手術室看護の役割を学ぶ(8時間) 1) 手術前の準備と観察 2) 手術中の観察と看護 麻酔導入と体位 ・体温管理 ・褥創・感染予防、事故防止			講義を中心に進める 随時、事例を用いた看護過程演習を取り入れる
《テキスト》 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 / 別巻 臨床外科看護各論			
《評 価》 評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする) 配点(外科看護総論 20点、周手術(1) 20点、周手術(2) 20点、周手術(3) 10点、手術室看護 30点)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
老年看護学総論	1単位 15時間	2年前期	専任教員 看護師 宇佐美 麻理子
《学習目標》			
1. 老年期にある対象の人権と看護の役割について学ぶ。 2. 老年期にある対象の生活史に学び、健康権と保健・福祉の役割について学ぶ。			
授 業 内 容			授 業 方 法
1講 : 高齢者(老年期)の理解 1) ライフサイクルにおける老年期 2) 老年期の特徴(社会的、身体的、精神的変化) 3) 老年者擬似体験の導入 2講 : 老年者擬似体験 日常生活での不自由さを具体的に知り、看護の視点を考える。 3講 : 老年者擬似体験のまとめ 老年期の特徴と発達課題 4講 : 看護の対象である高齢者とその個別性を理解する 1) 生活史と時代背景 ・ 老化と発達、歴史的存在としての高齢者 2) 老年看護の目標と原則 5、6講 : 高齢者の健康問題と看護上の課題 1) 高齢化の現状と今後の動向 2) 高齢者の生活実態の変化(家族形態、生活環境、経済力、就業状況、社会生活への参加・生き甲斐) 3) 高齢者の疾病の特徴と看護 4) 高齢者総合機能評価、退院支援に向けた他職種との連携 5) 要介護高齢者の実態と介護状況 6) 家族への看護 7、8講 : 高齢者を支える保健・医療・福祉制度 1) 高齢者の保健・医療・福祉・介護制度の歴史的変遷 2) 高齢者の療養の場所の特徴 3) 高齢者の権利擁護のための制度			講義形式で進める ・老年期の特徴 (社会的、身体的、精神的グループワークで看護の視点を考える) ・演習とグループワーク ・グループ毎にまとめを発表する ・4講目以降は講義中心に進める ビデオ視聴も取り入れる
《テキスト》			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論			
《評 価》			
評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
老年看護学各論 I (老年期にある対象の理解)	1単位 15時間	2年前期	専任教員 看護師 川上 佐代子 副校長 看護師 片岡 和江
《学習目標》 1. 加齢に伴う心身の変化を科学的にとらえる。 2. 老年期にある対象の健康権と保健・福祉の役割を学ぶ。			
授 業 内 容			授業方法
1. 高齢者の解剖生理学的特徴と病態 1) 老化とは 2) 高齢者の解剖生理学的特徴 3) 生理的老化から病的老化への移行 4) 高齢者の健康状態と受療の状況、死亡に関する統計 5) 老年症候群 6) 高齢者の疾患と病態の特徴と看護 7) 諸臓器の加齢的变化と多くみられる症候と疾患の特徴 ・フレイル、廃用症候群、脱水症、薬物代謝、尿失禁、便秘、 睡眠障害、嚥下障害 ・肺炎、結核、心不全、骨粗鬆症、骨折、感染症、認知症、掻痒症、 視覚障害、聴覚障害 2. 老年者に関わる保険制度 1) 医療保険 2) 介護保険			講義を中心に進める
《テキスト》 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論			
《評 価》 評価は筆記試験にて行う（60点以上を合格とする）			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
老年看護学各論Ⅱ (老年期の疾患と治療)	1単位 15時間	2年次	非常勤講師 単元1 医師 鈴木 龍弘 単元2 理学療法士 湯野 健一
《学習目標》			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期に多い疾患の病態と治療を学ぶ。 2. リハビリテーションの意義と実際を学ぶ。 3. 老年期にある対象の健康回復、維持・増進を支援する看護の役割を学ぶ。 			
授 業 内 容			授 業 方 法
<p>【単元1】泌尿器疾患（5時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 尿路感染 2) 機能障害 3) 尿路外傷 4) 尿路結石 5) 尿路腫瘍 6) 先天異常 <p>【単元2】リハビリテーション（10時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) リハビリテーションとは 2) 作業療法 3) 理学療法 4) 言語聴覚療法 			<p>講義形式で、泌尿器科治療の基礎知識を解説する</p> <p>リハビリテーション療法の実際に基づき、基礎知識を解説し、演習を取り入れる</p>
《テキスト》			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護			
《評 価》			
評価は筆記試験にて行う（60点以上を合格とする） 試験配点(泌尿器疾患 30 点、リハビリテーション 70 点)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
老年看護学各論Ⅲ (老年期にある対象の看護)	1単位 30時間	2年次	非常勤講師 認知症看護認定看護師 山上智子 専任教員 看護師 宇佐美 麻理子
《学習目標》 1. 老年期の生活を支援する看護技術を学ぶ。 2. 老年期にある対象の看護過程展開の技術について事例を通して学ぶ。			
授 業 内 容			授 業 方 法
1. 高齢者の看護 (18時間) <ul style="list-style-type: none"> (1) 認知症高齢者の看護(6時間) (2) 入院生活への援助(6時間) <ul style="list-style-type: none"> ・入院時の看護 ・検査治療を受ける高齢者の看護 ・生活機能向上につなぐ看護(リハビリとの連携) ・地域連携における退院時の看護 ・高齢者の終末期の看護 (3) 老年看護の基本技術(6時間) <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の生活アセスメント ① コミュニケーションの技術 ② 歩行・移動動作の援助(転倒予防) ③ 排泄の援助 ④ 栄養・食事援助 ⑤ 誤嚥・窒息予防の援助 ⑥ 脱水予防 ⑦ 口腔ケア ⑧ スキンケア ⑨ 褥創予防 ⑩ 生活リズムの調整、社会的活動への援助 			講義形式で進める ・一般病院に認知症看護認定看護師として勤務し、病院内の認知症患者の看護の質向上を目指した研修の企画などの実践を基礎に、高齢者の看護および認知症患者の看護について解説する。
2. 高齢者を対象にした看護過程(12時間) 老年看護学総論や各論Ⅰ、Ⅱをふまえ老年期の看護展開の基礎を学習する			・一般病院のリハビリ病棟での実践を基盤に、老年看護学総論や老年看護学各をふまえ、老年期の看護展開の基礎について解説する。 ・
《テキスト》 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論			
《評 価》 評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
小児看護学総論	1単位 15時間	2年次	副教務主任 看護師 菅原 奈津子
《学習目標》			
1. 小児期の特徴を学び、こども観・家族観を養う。 2. 小児と家族の人権を学び、看護に活かす。 3. 健康障害が小児と家族に与える影響を理解し、小児看護の役割を考える。 4. 小児と家族を取り巻く社会状況と健康問題を関連づけて学ぶ。 5. 小児と家族のサポートシステムと保健医療福祉施策と課題を学ぶ。			
授業内容		授業方法	
1. 小児期の特徴と成長・発達の概要 1) 小児の特徴 2) 小児の各成長・発達段階の理解 3) 各発達段階と健康習慣の獲得、日常生活の支援 4) 小児の健康と健康障害の特徴(生命活動と病気) 2. 小児を取り巻く医療の変遷と課題 1) 子どもの見方の歴史的変遷と子どもの権利 2) 小児看護における子どもの権利擁護 3. 健康障害が小児と家族に与える影響と小児看護の役割 1) 家族の特徴と医療・看護の役割 2) 健康障害が子どもと家族に与える影響と看護 3) 子どもと家族の看護アセスメント 4. 現代社会における小児の諸問題と看護の視点 グループワーク2講 (下欄参照) 5. 小児を取り巻く社会状況と健康問題 1) 小児をめぐる諸統計 2) 小児の保健・福祉行政 3) 発達各期の保健と保健指導 4) 現代社会における小児の諸問題と今後の課題		以下の点に触れながら講義する 《小児の理解とケア》 ・ボウルビィ ピアジェ エリクソンの発達理論 ・プレパレーション ・子どもの生活と課題 ・アメリカの権利擁護 《子どもを取り巻く環境》 ・家族の養育と集団保育 ・学校教育と学校保健 ・子どもの環境・文化 《家族の発達とヘルスケア力》 ・現代家族の特徴—親・子どもの状況 ・虐待 ・自然・社会環境・ライフスタイルの変化 ・家族の脆弱さ—貧困・サポート体制 《周手術期の看護》 《健やか親子 21》 ・障害のある子どもと在宅看護	
＊グループワーク課題 (これらの中から1テーマを選択し、グループで学習・発表する) ＊虐待が健康と成長にあたえる影響と家族支援 ＊いじめと体罰 ＊不登校 ＊メディアが子ども・若者に与える影響と上手な付き合い方 ＊認知の発達とプレパレーション			
《テキスト》 新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論 小児保健 新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護			
《評価》 認定は筆記試験、グループ発表、学習ノートにて総合評価する(60点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
小児看護学各論 I (小児期にある対象の理解)	1単位 30 時間	2年次	非常勤講師 医師 阿南 佐和 保育士 本多 真弓 学童保育指導員 林 奈津子 看護師 多屋 佳葉
《学習目標》 1. 小児の成長・発達をとらえた看護の役割を理解する。 2. 小児の発達段階に応じた養育と家族理解			
授業内容			授業方法
1. 小児の成長・発達と日常生活と援助 (1) 成長・発達総論 (2) 各期の成長と機能の発達 (3) 発達評価と乳幼児健診 (4) 小児の発達と日常生活行動の変化 (5) 2. 予防接種 3. 発達各期の特徴と養育支援 1) 新生児・乳児期の成長・発達と日常生活の獲得と養育 (1) 栄養－母乳 離乳食 (2) 新生児・乳児期の養育と家族支援 2) 幼児期の成長発達の特徴と養育・保健 (1) 日常生活習慣の獲得 (2) 乳幼児期の養育と家族支援 (3) 学童期の成長発達の特徴と養育 (1) 学童期の特徴 ・物の見方 ・個と集団 (2) 学童期の生活と保健 (3) 学童期と家族 (4) 思春期の成長発達の特徴 (1) 思春期の特徴 (2) 思春期の生活と保健 4. 小児と家族への外来看護 (1) フィジカルアセスメントと看護 (急性疾患、慢性疾患、虐待のリスクと予防) (2) 診察・検査・家庭での療養への援助 (3) 病児保育(子どもとの関わりを中心に:あやし方、遊びかた、観察力) (4) 在宅療養への支援(障害児の看護,慢性疾患) 5. 小児の事故予防と感染対策			《医師の講義》(8 時間) i) 6 章、7 章 IV 予防注射 ii) 2 章 新生児 講義を中心とするが、グループワーク などを取り入れた双方向の授業を行う 予定。 《保育士の講義》(6 時間) i) 6 章 乳児・幼児の特徴と養育 生活・遊び・コミュニケーション 家族支援 《学童保育指導員講義》(6 時間) 学童期・思春期の発達の特徴と養育・ 教育 あそび・性教育 《看護師の講義》(10 時間) i) 6 章 V・VI 7 章 III・IV・V VI 保健や看護分野 ii) 3 章 III フィジカルアセスメント (技術) 7 章 1.VIII.XIV.XV
《テキスト》 i) 新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護概論 小児保健 ii) 新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護			
《評価》 評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
小児看護学各論Ⅱ (小児期の疾患と治療)	1単位 30時間	2年後期	非常勤講師 医師 松浦 武志・福原 正和
《学習目標》			
1. 小児の病態を科学的にとらえ、治療の進行過程を支援する看護技術を理解する。 2. 小グループで自らが課題を見つけてそれを解決する学習方法を身に着ける。			
授 業 内 容			授 業 方 法
1. 新生児総論 ① 先天異常 ② 新生児の特徴と特有な疾患 2. 循環器疾患 3. 呼吸器疾患 4. 消化器疾患 5. 腎疾患 6. 内分泌・代謝疾患 7. 事故・中毒と災害医療 (PTSD) 8. 神経・筋疾患、てんかん 9. 心身症・発達障害・虐待 10. 悪性新生物 11. 免疫・アレルギー疾患 12. 感染症 13. その他(皮膚・耳鼻科・運動器など)			講義形式で進める 講義1～2回に対して、その内容に沿ったグループワークを2～3回行う。(4回の授業を1クールとし、3クール行う=計12回) グループワークはPBL (Problem-Based-Learning)方式(=問題解決型学習)とする。PBL方式とは学生が与えられた事例をもとに自ら課題を見つけ、グループ内でその課題を協力して解決していく学習方法である。 PBLを行う際は、自らの課題に対し、自ら学習する必要があるため、教科書や参考書などが手元に必要である。またスマートフォンやパソコンなどの情報機器を教室内に持ち込んで学習を進めることも可能である。
《テキスト》			
新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護概論・小児保健 新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護 子どもの病気の地図帳			
《評価》			
評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
母性看護学総論	1単位 15時間	2年前期	専任教員 助産師 森下 千鶴
《学習目標》			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性の概念を理解し、母性看護の対象を理解できる。 2. 保健・医療・福祉など母性を取り巻く現代社会の動向が理解できる。 3. 学習を通し、自身の健康や生命について考える機会とする。 4. 母性看護過程の特徴と構成要素を理解する。 			
授 業 内 容			授 業 方 法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の基盤となる概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 母性とは 2) 母性看護の目的と課題 3) リプロダクティブヘルス・ライツ 2. 母性看護の対象を取り巻く社会 <ol style="list-style-type: none"> 1) 母性看護の歴史の変遷 2) 母性を取り巻く環境と社会の現状、その課題 3. 母性看護の対象 <ol style="list-style-type: none"> 1) 女性のライフサイクルと家族 2) 母性の発達・成熟・継承 4. ライフサイクル各期における女性の健康問題と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 性周期と女性のライフサイクル 2) 思春期の健康と看護 3) 更年期・老年期の健康と看護 5. リプロダクティブヘルスケア <ol style="list-style-type: none"> 1) リプロダクティブヘルスに関する主要な問題とその看護 2) グループワークと発表 リプロダクティブヘルスに関する主要な問題について事前レポートに個人で取り組み、それを基にグループワークで討議し、発表し学び合う。 6. 母性看護における看護過程 <ol style="list-style-type: none"> 1) 母性看護過程の特徴と構成要素 			<p>講義形式ですすめる</p> <p>一般病院の助産師としての実践を基盤に、母性看護学の基礎知識を解説するとともに、母性をめぐる社会状況にも目を向ける。</p> <p>また、臨床で経験される模擬事例を用いて、グループワークなどを取り入れ、看護過程展開について解説する。</p> <p>* グループワークと発表</p>
《テキスト》			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②			
《評 価》			
筆記試験、個人レポート、グループワークと発表にて総合評価する(60点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
母性看護学各論 I (生命誕生と周産期にある対象の理解)	1単位 30時間	2年後期	校長 医師 中佐藤 利一 非常勤講師 医師 長島 香・西岡 利泰 助産師 小田 麻紀子 看護師 遠藤 絹子
《学習目標》			
1. 女性生殖器の構造と機能について理解できる。 2. 生命誕生の科学を学ぶ。 3. 妊娠、分娩、産褥早期における母性の健康問題を解決するための援助方法を理解する基礎を学ぶ。 4. 生殖機能をつかさどる器官の障害と看護について理解できる			
授 業 内 容			授 業 方 法
1. 女性生殖器の構造と生殖機能の生理 (2時間) 2. 生殖機能をつかさどる器官の障害と看護 (8時間) <ol style="list-style-type: none"> 1) 女性生殖器の臓器別疾患 2) 女性生殖器の機能的疾患 3) 性感染症 4) 診察・検査と治療・処置の実際 5) 手術療法や化学療法・放射線療法を受ける 患者の看護 6) 検査や診察を受ける患者の看護 7) 生殖治療を受ける患者の看護 3. 妊娠による母体の変化・胎児の成長と発達 (8時間) <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠の定義と妊娠の経過 2) 妊娠の生理と母体の生理的变化 3) 胎児の成長と発達 4) 妊娠期の心理・社会的変化 5) 妊婦と胎児のアセスメント 4. 正常分娩(4時間) <ol style="list-style-type: none"> 1) 分娩の要素 2) 分娩の経過 5. 妊娠・分娩・産褥早期の異常 (8時間) <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠中の偶発性器疾患 2) 妊娠中の胎児および付属物の異常 3) 妊娠中の母体の全身的疾患 4) 子宮外妊娠、妊娠持続期間の異常(流産、過期妊娠など) 5) 分娩時(後産期および分娩直後含む)の母体の異常 6) 分娩時の胎児およびその付属物の異常 7) 分娩時の異常出血 8) 検査と治療(産科的処置・手術も含む)の実際 			1. と 2. 1)～4)は医師が担当し4時間とする。 2. 5)～6)は看護師が担当し6時間とする。 3. 1)～3)は医師が担当し4時間とする。 3. 4)～5)は助産師が担当し4時間とする。 4. は4時間で医師が担当する。 5. 1)～4)は医師が担当し4時間とする。 5. 5)～8)は医師が担当し4時間とする。
《テキスト》 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨ 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②			
《評 価》			
評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
母性看護学各論Ⅱ (妊娠、分娩期の看護)	1単位 30時間	2年後期	非常勤講師 助産師 佐藤 さくら・出塚 望・小貫奈津美 専任教員 助産師 森下 千鶴
《学習目標》			
1. 周産期の健康問題および、各期における看護・保健活動が理解できる。 2. 周産期の母性の心理的变化をふまえて、各期の看護・保健活動が理解できる。 3. 周産期の看護を展開するうえで必要な社会資源活用の実際について理解できる。			
授 業 内 容		授 業 方 法	
1. 妊娠期の看護 1) 妊婦健診・保健指導の内容・意義目的 2) 親になるための準備教育の実際 分娩準備教育 育児準備のための保健指導*母乳哺育の準備も含む 家族役割調整のための保健指導 2. 分娩期の看護(10時間) 1) 分娩各期に応じた看護 2) ハイリスクおよび異常分娩時の看護 3) 産婦の心理的特徴と産婦をとりまく環境 4) 分娩各期に応じた看護の実際 *産婦の看護アセスメントと看護過程 3. 産褥期の母子の看護(6時間) 1) 産褥の復古現象と全身状態の変化 2) 乳汁分泌と母乳栄養 ア)乳房および乳腺の変化、乳汁分泌経過 イ)母乳栄養 3) 産褥期の心理・社会的変化 4) 出生直後の新生児の特徴と看護 5) 新生児の観察と日常の看護 6) 新生児の成長・発達 7) 退院後の生活を踏まえた保健指導 4. 産褥期の母子の看護過程(6時間) 1) 産褥母子のアセスメント 2) 産褥期の母子への看護の実際 ・母乳確立への援助 ・産後の復古現象促進の援助 ・母親役割獲得に向けての保健指導 3)ハイリスクな状況にある新生児の看護 ・低出生体重児・先天異常を持つ新生児		1. 演習と講義 <u>演習個人レポート課題</u> 1)妊婦健診の内容・時期と妊娠各期における保健指導のポイントについてについてまとめる。 2)妊娠期の食生活についてどのようなことに留意すべきかまとめる。 2. 講義 1)2)3)は専任教員、4)は助産師による講義。 3. 専任教員による講義 4. 助産師による講義	
《テキスト》			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②			
《評 価》			
評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
母性看護学各論Ⅲ (産褥期、新生児看護)	1単位 30時間	3年前期	専任教員 助産師 森下 千鶴 看護師 吉田 文絵
《学習目標》			
1. 周産期の母子の健康状態を理解し、看護過程展開に活かすことができる。 2. 周産期の母子に必要な看護技術の実際について理解を深める。 3. 母性看護過程の基礎を理解する。 4. 周産期の看護計画立案の基礎を理解する。			
授 業 内 容		授 業 方 法	
1. 妊娠期における看護の実際 演習：妊娠中の療養指導(10時間)		演習テーマ 例①母乳栄養について ②妊娠中の体重管理(悪阻および肥満)③妊婦の活動と休息④ 妊娠高血圧症候群⑤妊娠貧血⑥妊婦と喫煙・飲酒 *グループでテーマに基づき演習を行いゼミナールで発表し 学びあう グループとテーマを提示した後にグループワークを6時間行 い、発表を4時間で行う。	
2. 産褥期の母子に提供する看護技術(6時間) 演習:新生児のフィジカルアセスメントと沐浴 ①新生児のバイタルサインと身体計測 ②沐浴の目的と手順 講義2時間 演習4時間			
3. 周産期の看護過程展開(10時間) 1)周産期の看護過程の特徴 2)情報収集とアセスメントの実際 3)看護問題の抽出 4)看護計画の立案と実践の評価		講義、グループ演習後 個人演習後、レポート提出。 その後の講義にてまとめと解説	
《教科書》			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②			
《評 価》			
認定は筆記試験(80%)と演習レポート(20%)にて行い、60点以上を合格とする、			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
精神看護学総論	1単位 30時間	2年次	副教務主任 看護師 久保田 千香子
《目標》			
1. 精神保健医療・看護の歴史の変遷と現状を学び、精神障害者の人権尊重の重要性と精神保健医療看護のあり方、今後の課題について考える 2. 精神障害者と家族の理解を深め、治療の有意性と精神看護の特徴と役割について学ぶ 3. 精神保健看護を展開していく上で必要な基本的知識・技術について学び、精神に健康障害をもつ対象の看護について理解を深める 4. 人間の健康を心、身体、社会との関連で総合的に理解し、対象や自分自身の心の健康を維持するために必要な知識・技術について学ぶ			
授 業 内 容			授 業 方 法
1、精神の健康とは 精神保健看護の目的 2、日本の精神障害者の現状および精神医療の現状と課題 3、精神障害者の理解の歴史～差別・偏見から権利擁護へ 4、精神保健の課題 5、精神障害者の人権擁護とリスクマネジメント 6、精神科治療と看護 臨床検査 7、精神保健看護に必要な基本的看護技術 8、精神症状の理解と看護1 9、精神症状の理解と看護2 10、精神障害者の看護1(統合失調症) 11、当事者活動(リカバリー、ストレングス、エンパワーメント) 12、当事者からの講話 13、精神障害者の看護2(気分障害) 14、精神障害者の看護3(神経症、摂食障害など) 15、精神障害者の家族の理解と援助			講義形式で進める ・初回講義でそれぞれの学生の「精神障害に対するイメージ、精神の健康や障害についての問題意識」を自由に記載してもらおう。 ・当事者活動のDVD/HP活用 ・「精神障害をもつ当事者の話」を聞いての感想と学びについてレポート提出。
《テキスト》 新体系 看護学全集 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 新体系 看護学全集 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護			
《評価》 評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
精神看護学各論 I (精神保健の動向)	1単位 15 時間	2年前期	非常勤講師 公認心理士・臨床心理士 佐野 友泰
《学習目標》 精神保健の動向と保健活動の意義について学ぶ。			
授 業 内 容			授 業 方 法
第1講 精神保健医療の歴史と現状 第2講 心の構造とメカニズム 第3講 危機状態と心の働き 第4講 子どものこころと発達 第5講 青年期の発達と臨床問題 第6講 成人期・老年期の発達と臨床問題 第7講 精神保健福祉法 精神障害者地域移行・地域定着支援 精神障害者アウトリーチ推進 第8講 精神科リハビリテーション 障害者総合支援法によるサービス 災害時地域精神保健医療			講義形式で進める
《テキスト》 新体系 看護学全集 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 新体系 看護学全集 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護			
《評 価》 評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
精神看護学各論Ⅱ (精神障害の病態と治療)	1単位 15時間	2年前期	非常勤講師 精神看護専門看護師 村本 好孝
《学習目標》 精神障害の病態を科学的にとらえ、生活史を総合して対象をとらえる重要性について学ぶ。			
授 業 内 容			授業方法
1、総論、疾患各論 ・精神障害の診断基準・分類 ・統合失調症①(疾患概念、症状、治療) 2、疾患各論 ・統合失調症②(歴史から振り返る) 映画『人生ここにあり』 3、疾患各論 ・統合失調症③ 4、疾患各論 ・双極性障害および関連障害群 ・抑うつ障害群 5、疾患各論 ・気分障害 リワークプログラム ・不安症群/不安障害群 6、疾患各論 ・強迫症および関連症群 / 強迫性障害および関連障害群 ・心的外傷およびストレス因関連障害群 ・解離性障害群 ・身体症状症および関連症群 ・食行動障害および摂食障害群 7、疾患各論 ・パーソナリティ障害群 ・てんかん 主な治療法 ・薬物療法 ・電気けいれん療法 ・リハビリテーション療法			講義形式で進める
《テキスト》 新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護			
《評 価》 評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
精神看護学各論Ⅲ (精神障害を持つ対象の看護)	1単位 15時間	3年前期	専任教員 看護師 佐藤 由香里
《学習目標》 精神障害の健康障害をもつ人の看護の展開を学ぶ			
授 業 内 容			授業方法
1. 統合失調症患者の看護過程の展開 事前学習 ①急性期・回復期・慢性期統合失調症の病態、治療、リハビリテーションについて ②統合失調症患者の看護に求められる視点 対象理解に必要な情報整理とアセスメントの視点 2. 演習・グループワーク 模擬事例のアセスメント(情報の分析、看護問題の明確化)グループで討議 3. グループ発表・交流 4. 模擬事例による看護計画を個人で立案する 5. 看護計画例			・1と2については講義形式で進める
《学習課題》 ・初回講義前に参考図書「統合失調症はどんな病気か どう治すのか」を読んでおく。 ・演習の前に教科書、講義資料、ノートで学習して臨む。			
《テキスト》 新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 《参考図書》 統合失調症はどんな病気か どう治すのか 萌文社 遠山照彦			
《評 価》 模擬事例のグループ発表状況(20%)、個人で立案した看護計画(80%)にて総合評価する(60点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
成人看護学実習 I	3単位 135時間	2年前期	専任教員 看護師 宇佐美 麻理子、身崎 佳代
<p>1. 実習目的 成人期にある対象の特徴を理解し、看護展開する力を身につけ、対象の基本的な人権を護る看護の役割を学ぶ。</p> <p>2. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の病気や障害をこれまでの生活とのかかわりでとらえ、成人期の健康障害について理解する。 2) 成人期にある対象の看護過程を学び、看護チームの指導を受けながら実践する。 3) 対象の病気や障害の回復を応援する安全で科学的な看護技術を習得する。 4) 対象との信頼関係を築き看護援助するためのコミュニケーションがとれる。 5) ペアやグループの中で自分の考えや意見を述べ、学びあう事ができる。 6) 患者の医療を受ける権利を保障する立場から一切の贈り物を受け取らない。 			
授 業 内 容 と 方 法			
<ol style="list-style-type: none"> 1) ペアまたは一人で事例を受け持つ。 2) 実習は毎日、行動計画を立て実施する。 3) 看護計画は、看護チームの計画も参考にして実習2週目後半～3週目をめどに指導を受けて立案し、適宜、評価・修正を行う。 5) 看護技術については、指導を受け段階を経て安全に実施する。 6) 実践した内容と結果、観察や得られた情報は正確に報告・記録する。記録は学生用入院診療記録用紙に記載し指導を受けた後、学生用カルテに綴る。 7) 学生カンファレンスは毎日行う。 8) 実習中に、2週目後半から3週目前半には、受け持ち患者についての事例紹介を行い、グループで学び合う。 9) 事例の病態や治療方針について医師や臨床指導者から臨床講義を受ける。 10) 日々の実習内容や学習した事などは実習ノートに毎日整理し、必要時指導を受ける。 11) 実習中のヒヤリ・ハット体験は、すぐに臨床指導者や教員に報告し、適切な対応を行う。 またヒヤリ・ハット体験用紙に整理、振り返りを行い、グループ・クラスで学びあう。 12) 実習終了時の総括カンファレンスは、実習目標を振り返り、学びを整理して臨む。 13) 事例は実習終了後、各自でケースレポートにまとめ、ゼミナールで交流し学び合う。 			
<p>《評価》 下記のC評価以上を合格とする A: (80点以上) B: (70～79点) C: (60～69点) D: (60点未満)</p>			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
成人看護学実習Ⅱ	3単位 145時間	2年後期	専任教員 看護師 宇佐美 麻理子、身崎 佳代
<p>1. 実習目的 成人期にある対象の特徴を理解し、看護展開する力を身につけ、対象の基本的な人権を護る看護の役割を学ぶ。</p> <p>2. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の病気や障害をこれまでの生活とのかかわりでとらえ、成人期の健康障害について理解する。 2) 成人期にある対象の看護過程を学び、看護チームの指導を受けながら実践する。 3) 対象の病気や障害の回復を応援する安全で科学的な看護技術を習得する。 4) 対象との信頼関係を築き看護援助するためのコミュニケーションがとれる。 <ol style="list-style-type: none"> ① 対象を尊重した態度、言葉遣いができる。 ② 対象の反応を確認しながら会話を進めることができる。 ③ 看護に必要な情報を得ることができる。 5) ペアやグループの中で自分の考えや意見を述べ、学びあう事ができる。 6) 患者の医療を受ける権利を保障する立場から一切の贈り物を受け取らない。 			
授 業 内 容 と 方 法			
<ol style="list-style-type: none"> 1) ペアまたは一人で事例を受け持つ。 2) 実習は毎日、行動計画を立て実施する。 3) 病床環境に目を向け、環境整備を行う。 4) 看護計画は、看護チームの計画も参考にして実習2週目後半～3週目をめどに指導を受けて立案し、適宜、評価・修正を行う。 5) 看護技術については、指導を受け段階を経て安全に実施する(参照:P21)。 6) 実践した内容と結果、観察や得られた情報は正確に報告・記録する。記録は学生用入院診療記録用紙に記載し指導を受けた後、学生用カルテに綴る。 7) 学生カンファレンスは毎日行う。カンファレンスにはそれぞれが主体的に参加し、日々の実践報告にとどめず疑問や困った事を話し合い、次の日の看護実践につながる内容とする。尚、討議経過はカンファレンスノートに要点を記録する。 8) 実習中に、2週目後半から3週目前半には、受け持ち患者についての事例紹介を行い、グループで学び合う。 9) 事例の病態や治療方針について医師や臨床指導者から臨床講義を受ける。 事例の疾患、治療を自己学習し、検査データ、治療経過などの情報収集を行った上で、疑問点を事前に整理し、質問を準備しておく。 10) 日々の実習内容や学習した事などは実習ノートに毎日整理し、必要時指導を受ける。 11) 実習中のヒヤリ・ハット体験は、すぐに臨床指導者や教員に報告し、適切な対応を行う。 またヒヤリ・ハット体験用紙に整理、振り返りを行い、グループ・クラスで学びあう。 12) 実習終了時の総括カンファレンスは、実習目標を振り返り、学びを整理して臨む。 13) 事例は実習終了後、各自でケースレポートにまとめ、ゼミナールで交流し学び合う。 <p>《評価》 下記のC評価以上を合格とする A: (80点以上) B: (70～79点) C: (60～69点) D: (60点未満)</p>			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
老年看護学実習 I	2単位 90時間	2年後期	専任教員 看護師 宇佐美 麻理子、身崎 佳代
<p>1. 実習目的 老年期にある対象の特徴とその家族を理解し、対象の病気や障害に応じて看護展開する力を身につけ、対象の基本的な人権を護る看護の役割を学ぶ。</p> <p>2. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活史や背景、加齢による変化を学び老年期にある対象を理解する。 2) 老年期にある対象の複雑で多様な病態を理解し、対象の健康障害・生活障害に応じた看護過程を学ぶ。 3) 老年期にある対象の医療や看護への願いや期待を知り、人権を尊重した援助を行う。 4) 老年期にある対象を支える家族の課題を知り、援助を考える。 			
授 業 内 容 と 方 法			
<p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ペアまたは一人で事例を受け持つ。 2) 実習は毎日、行動計画を立て実施する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 行動計画用紙には目的を明確にした観察や援助内容を具体的に記載する。 ② 受け持ち患者の状態やスケジュール(検査の予定など)も考慮し、行動計画を立てる。 ③ 毎朝、必ず担当看護師と行動計画用紙を用いて実習の打ち合わせを行う。 ④ 計画をもとに、観察の視点、援助を行う際の留意点などについて指導を受けた上で実践する。 3) 病床環境に目を向け、環境整備を行う。 4) 看護計画は、看護チームの計画も参考にして実習2週目をめどに指導を受けて立案し、適宜、評価・修正を行う。 5) 看護技術については、指導を受け段階を経て安全に実施する(参照:P21)。 6) 実践した内容と結果、観察や得られた情報は正確に報告・記録する。記録は学生用入院診療記録用紙に記載し指導を受けた後、学生用カルテに綴る。 7) 学生カンファレンスは毎日行う。カンファレンスにはそれぞれが主体的に参加し、日々の実践報告にとどめず疑問や困った事を話し合い、次の日の看護実践につながる内容とする。尚、討議経過はカンファレンスノートに要点を記録する。 8) 実習中の2週目後半～3週目前半には、受け持ち患者についての事例紹介を行い、グループで学び合う。 9) 事例の病態や治療方針について医師や臨床指導者から臨床講義を受ける。 事例の疾患、治療を自己学習し、検査データ、治療経過などの情報収集を行った上で、疑問点を事前に整理し、質問を準備しておく。 10) 日々の実習内容や学習した事などは実習ノートに毎日整理し、必要時指導を受ける。 11) 実習中のヒヤリ・ハット体験は、すぐに臨床指導者や教員に報告し、適切な対応を行う。 またヒヤリ・ハット体験用紙に整理、振り返りを行い、グループ・クラスで学びあう。 12) 実習終了時の総括カンファレンスは、実習目標を振り返り、学びを整理して臨む。 13) 事例は実習終了後、各自でケースレポートにまとめ、ゼミナールで交流し学び合う。 <p>《評価》 下記のC評価以上を合格とする A: (80点以上) B: (70～79点) C: (60～69点) D: (60点未満)</p>			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
老年看護学実習Ⅱ	2単位 90時間	3年後期	専任教員 看護師 佐藤 幸子、佐藤 由香里
<p>1. 実習目的 老年期にある対象の特徴とその家族を理解し、対象の病気や障害に応じて看護展開する力を身につけ、対象の基本的な人権を護る看護の役割を学ぶ。</p> <p>2. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活史や背景、加齢による変化を学び老年期にある対象を理解する。 2) 老年期にある対象の複雑で多様な病態を理解し、対象の健康障害・生活障害に応じた看護過程を学び、看護チームとともに実践する。 3) 老年期にある対象の医療や看護への願いや期待を知り、人権を尊重した援助を行う。 4) 老年期にある対象を支える家族の課題を知り、援助を考える。 5) 老年期にある対象を取り巻く保健・医療・福祉の役割や連携の実際を知り、その中で看護の役割を学ぶ。 			
授 業 内 容 と 方 法			
<ol style="list-style-type: none"> 1) ペアまたは一人で事例を受け持つ。 2) 事例の生活史について情報収集を行った上で、時代背景と照らし事例の理解を深める。 3) 対象の背景の情報を収集し理解する。 4) 事例の病態や治療方針について医師や臨床指導者から臨床講義を受ける。 5) 行動計画用紙には受け持ち患者の状態とスケジュールを考え、目的を明確にした観察や援助内容を具体的に記載する。 6) 事例に必要な病床環境を考え、環境整備を行う。 7) 看護計画は、実習1週目後半～2週目をめどに指導を受けながら立案する。医療チームの一員として看護実践し、適宜、評価・修正を行う。 8) 対象の健康に対する期待や願いに応える療養指導について機会があれば実践する。 9) 在宅調整会議や介護認定調査、在宅調整に向けた自宅訪問など医療・福祉の連携の場面に機会があれば参加する。 10) 事例の医療保険制度や介護保険制度、所得保障制度の状況を把握し、必要時ソーシャルワーカーや医療事務より説明を受ける。 11) 事例に応じて退院後のフォローをする。 12) 看護技術については、指導を受け段階を経て安全に実施する。 13) 実践した内容と結果、観察や得られた情報は正確に報告・記録する。 14) 学生カンファレンスは毎日行う。 15) 日々の実習内容や学習した事などは実習ノートに毎日整理し、必要時指導を受ける。 16) 事例紹介は、実習中の2週目後半から3週目前半に行い、グループで学び合う。 17) 実習中のヒヤリ・ハット体験は、すぐに臨床指導者や教員に報告し、適切な対応を行う。 またヒヤリ・ハット体験用紙に整理、振り返りを行い、グループ・クラスで学びあう。 18) 事例は実習終了後、各自でケースレポートにまとめ、総合ゼミナールで交流し学び合う。 			
<p>《評価》 下記のC評価以上を合格とする A: (80点以上) B: (70～79点) C: (60～69点) D: (60点未満)</p>			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
小児看護学実習	2単位 90時間	3年次	専任教員 看護師 菅原 奈津子
<p>1. 実習目的 小児期にある対象の特徴とその家族を理解し、成長・発達段階、健康障害に応じた基本的人権を護る看護の役割を学ぶ。</p> <p>2. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児の成長・発達を理解する。 2) 小児との関わりを通して、生活行動や遊びを理解する。 3) 小児の保健行動獲得の支援と、健康管理の実際について学ぶ。 4) 小児期の疾患の特徴と病態を理解する。 5) 小児期の対象と家族の看護上の問題をとらえ看護の必要性を理解する。 6) 小児の人権や発達を保障する環境や関わりについて学ぶ。 7) 小児の健康障害が家族に与える影響をとらえ、保健・医療・福祉に対する願いや期待を理解する。 			
授 業 内 容 と 方 法			
<p>病棟実習</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 事例は様々な回復過程の児を受け持ち、観察できない期間の症状は記録物から捉える。 ② 看護計画は立案せず、病棟の看護計画を参考に行動計画を立て、担当看護師の指導を受け実習する。看護計画以外に看護の必要性が生じた場合は、その視点を追加する。 ③ 疾患学習や記録より観察項目を明らかにして行動計画を立案する。 ④ 小児の特徴をふまえたバイタルサイン、呼吸状態など指導を受け観察する。 ⑤ 受け持ち事例がない場合は、学習(疾患・看護、DVDなど)、小児看護技術体験などを行う。 ⑥ 感染予防対策(手洗い、マスクなど)を徹底する <p>外来実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 問診、診察、検査、処置、会計までの一連の受診行動に付き添い、受診目的、対象の疑問や不安がどのように解決されていくか、その過程に関わる。 ② 診察の介助・検査・処置の実際は、医師や看護師の小児・家族への声かけやプレパレーションなどを見学する。「診察介助(胸部、口腔、耳)」については、事前学習した上で、指導のもと実施する。 ③ 受診後のカルテなどから、児の発達状況、受診歴など必要な情報を収集する。 ④ 総括カンファランスは2週目の金曜日に1週目の学生も含め(全員が参加)行う。 <p>保育園・学童保育実習</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 子どもの生活に密着し、生活行動を観察する。 ② 子どもの発達の特徴について指導者の解説を受ける。 ③ 保健指導演習で準備した健康指導を実施する 			
<p>《評価》 下記のC評価以上を合格とする A: (80点以上) B: (70～79点) C: (60～69点) D: (60点未満)</p>			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
母性看護学実習	2単位 90時間	3年次	専任教員 助産師 森下 千鶴
<p>1. 実習目的 周産期にある対象の特徴を理解するとともに、ライフサイクル全般から女性の健康について考え、母性看護における対象の基本的な人権を護る看護の役割を学ぶ。</p> <p>2. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠・分娩・産褥各期の生理的变化を観察し、各期を援助する看護の役割、保健指導の実際を学ぶ。 2) 新生児の生理的变化、発達について観察し看護の役割を学ぶ。 3) 妊娠・分娩・育児を通して児と母が育ち合い成長していくための看護の役割を学ぶ。 4) 母性保健に関連した制度や社会資源の活用について学ぶ。 5) 女性のライフサイクル各期における健康障害について学ぶ。 6) 生命誕生の過程を学び、生命の尊厳について考える。 			
授業内容と方法			
<p>病棟実習</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 事例は分娩期、または産褥期にある事例をペアまたは1人で受け持つ。機会があれば分娩見学(経膈分娩・帝王切開見学)を行う。 ② 授業で使用した周産期の看護計画を参考に日々の行動計画を立て、担当指導者の指導を受け実習する。 ③ 実習内容を深めるために毎日学生カンファレンスを行う。 ④ 機会があれば、退院指導、沐浴指導などの保健指導の場面に参加・同行する。 ⑤ 感染予防のために服装は清潔な実習衣を着用し、処置ごとの手洗い、新生児室に入る際の手洗いを厳重に行なう。 <p>産科外来: 妊婦健診のシャドー研修から妊娠期の対象理解と看護の役割について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 妊婦健診に入り、【問診・保健指導】担当の指導者、【子宮底の測定・胎児心音の聴取 NST による観察】担当の指導者にそれぞれシャドー研修する。 ② 妊婦を担当し、挨拶・自己紹介を行い妊婦健診の一連の流れに同行する。 <p>婦人科外来: 婦人科受診の対象理解と看護の役割について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 女性生殖疾患患者を担当し、受診の一連の流れに同行する。 <p>産後訪問: 訪問に同行し、母と児の様子や保健指導の実際を見学し看護の役割について学ぶ。</p> <p>見学施設</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 北海道子ども総合医療・療育センター(コドモックル) 2) 助産施設・母乳相談所 			
<p>《評価》 下記のC評価以上を合格とする A: (80点以上) B: (70～79点) C: (60～69点) D: (60点未満)</p>			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
精神看護学実習	2単位 90時間	3年次	専任教員 看護師 久保田 千香子
<p>1. 実習目的 精神障害の理解を深め、精神障害をもつ対象に看護展開する力を身につけ、基本的人権を護る看護の役割を学ぶ。</p> <p>2. 実習目標</p> <p>1) 精神に障害をもつ対象をとらえ、回復を支援する治療や看護について理解する。 2) 対象の日常生活の自立を支援する看護の必要性を明らかにし、看護計画を立案して、指導のもと実践する。 3) 精神に障害をもつ対象の社会復帰を支援する活動の実際を知る。</p>			
授 業 内 容 と 方 法			
<p>実習方法</p> <p>病院実習</p> <p>① 実習は、一人で一事例の患者を受けもつ。 ② レクリエーションや作業療法、生活指導の場面に患者と共に参加する。 ③ 実習期間中に、保護室を見学する。 ④ 申し送り終了後、一日の行動計画を報告し、臨床指導者と打ち合わせし、実習計画にそって実習する。受け持ち患者が作業療法やレクレーションなどに参加する場合は一緒に参加する。 ⑤ 臨床指導者に一日の報告を行う。 ⑥ 16:00～16:50 カンファレンス</p> <p>精神保健福祉施設見学実習</p> <p>1. 実習目的 社会復帰施設の利用者さんとの関わりを通して、精神障害者への理解を深め、社会復帰を支援する活動の実際を知る。</p> <p>2. 実習内容</p> <p>① 利用者さんの作業やミーティングに参加し、活動の実際を知る。 ② 交流や説明を通して、施設の課題などを知る。</p>			
<p>《評価》 下記のC評価以上を合格とする A: (80点以上) B: (70～79点) C: (60～69点) D: (60点未満)</p>			

統合分野

統合分野 12 単位

統合分野は既習の知識、技術と、対象を尊重し主体的に学習する態度を統合し対象の個別性に応じた看護を実践する能力と、保健医療福祉の視点で他職種と協働しながら看護マネジメント能力を発揮し対象に必要な看護を統合して実践する能力を養い看護実践能力を向上させる分野と位置づける。

「在宅看護論」は地域で生活する人々とその家族を理解し、対象が在宅でその人らしく、安心して療養を続けることを支援するための基礎的な看護実践力を身につけ、保健医療福祉の協働の中で看護師に求められる役割を学ぶ内容とした。

「看護の統合と実践」では、これまでの学習を統合しつつ、チーム医療および他職種との協働の中で、看護師としてのリーダーシップ・メンバーシップを理解するとともに、看護マネジメントできる基礎的能力を養うことを目的として看護管理を科目とし、看護の役割を国際的な視野でとらえる国際看護、災害時に求められる看護の役割と基礎力を内容とする災害看護も含める。

また、今日の医療現場で求められる医療の安全性について、事故を分析し危険要因を見いだし、安全な医療、看護を提供するための判断力、実践力の基礎を学ぶ内容として医療安全を科目とする。

さらに、自己の看護実践を振り返り、看護師として学び続ける研究的態度を養うために看護研究を科目とする。

「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」に関しては、専門Ⅰおよび専門Ⅱの講義や実習の中でレベルに応じた獲得を目指すとともに評価を行う。

更に、実習の場では体験しにくい卒業後に実施する機会が多い診療の補助技術を中心に、卒業前に演習を行い獲得させることを目的として診療技術ゼミナールを科目とする。

「看護の統合と実践」の実習は、「統合実習」として3年次後半に実施する。

統合実習は、保健医療福祉チームにおける看護の役割を学ぶ、看護管理の実際と看護チームの一員としての体験や複数受け持ちを通して看護実践能力を身につけると同時に、夜間の時間帯の実習を通して就寝前までの患者の状況を知ることにより対象の理解を深める内容とする。

科目名	単位数	授業時期	担当講師
在宅看護概論	1単位 15時間	2年前期	専任教員 看護師 川上 佐代子
《学習目標》			
1. 在宅で疾病や障害を抱えて生活している対象とその家族について理解する。 2. 在宅看護活動の特徴と看護師の役割について理解する。 3. 対象が地域在宅で療養し続けるための医療・福祉・介護における多職種との協働・連携の必要性について学ぶ。			
授業内容		授業方法	
1. 在宅看護論の意義 1) 在宅看護の変遷と社会背景 2) 用語の定義—地域看護、在宅ケア、在宅看護の関連 3) 在宅で療養することのイメージ(長所、短所) 2. 在宅ケアと在宅看護 1) 在宅療養・看護の利点と限界 2) 在宅療養の成立要件 3) 在宅ケアチームの意義 3. 在宅看護の対象と看護活動 1) 在宅看護を必要としている人々 2) 看護職の役割 4. 5. 訪問看護ステーションの活動と介護保険制度 1) 訪問看護ステーションの機能 2) 介護保険と医療保険の活用 3) 事例を通して、ケアプラン、介護サービスの実際について学ぶ 6. 療養者が有する権利と在宅看護における倫理的課題 1) 療養者が有する権利 2) 看護師の債務としての権利擁護 3) 高齢者虐待の実態と「高齢者虐待防止法」 7. 在宅における 関係機関、職種との連携・協働 1) 地域におけるネットワーク 2) 地域包括ケアシステム 3) 地域包括支援センターの機能 8. 在宅療養における家族とは 1) 在宅療養者と家族 2) 介護による家族への影響 3) 介護負担軽減に向けた家族支援		講義を中心に進める 老年看護総論、各論Ⅰの授業内容を活用しながら進める 訪問看護の実際についてイメージするためDVDを視聴する 地域に関心をもち、保健医療福祉に関する事業所に注目するため、自身の住む地域をリサーチし「私の地域図」を作成する。 事例を通して、介護保険サービスの活用について学ぶ	
《テキスト》 ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域医療を支えるケア			
《参考図書》 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論			
《評価》			
認定は形成評価(20点)と筆記試験(80点)にて行う(60点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
在宅看護各論 I (看護マネジメント)	1単位 15時間	2年後期	専任教員 看護師 和田 都 他
《学習目標》 1. 訪問看護における看護過程の特徴を理解する。 2. 在宅看護過程の展開に必要な情報アセスメント、看護問題、看護計画の基礎力をつける。 3. 在宅看護における社会資源の活用とケアーマネージメントの役割について学ぶ。			
授業内容			授業方法
1、在宅看護過程の特徴 1) 臨床と在宅における療養目標の違い 2) 生活環境に伴う問題(転倒、窒息、熱傷、閉じこもり) 3) セルフケアを視点においた療養指導の必要性 2、訪問看護過程の展開 1) 訪問看護の留意点 ① 訪問看護時の態度の基本 ② 訪問看護時の面接技術 2) 情報収集・アセスメント ① 情報源の適切な選択と情報の優先順位 ② 情報アセスメントの展開 (病態の捉え方、生活環境、IADL・QOL) 3) 看護目標・計画の実際 ① 在宅療養上の問題と優先順位の視点 ② 短期目標と長期目標 ③ 療養者・家族・多職種と実践する計画立案 3、在宅ケアの連携とマネジメント 1) 地域包括ケアシステムと在宅ケア 2) ケアーマネージメントと看護 3) 関連職種との連携 4) 在宅ケアシステムの実際			講義形式で進める 基礎看護技術 I～VIII、臨床実習を活用しながら講義を進める。 模擬事例(用紙No.1～3)で「情報アセスメント」「看護問題」を考える。 臨地のケアマネージャーが、実例を交えて講義をする。
《テキスト》 ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域医療を支えるケア 《参考図書》 在宅看護過程演習 (クオリティケア) 在宅看護過程 (メジカルフレンド)			
《評価》 評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
在宅看護各論Ⅱ (在宅看護基本技術)	1単位 30時間	2年後期	非常勤講師 皮膚・排泄ケア 認定看護師 大関 亜樹子(単元2) 看護師 越前真理子・高橋亜樹・室田ちひろ(単元3) 専任教員 看護師 佐藤 幸子・佐藤 由香里・宇佐美 麻理子 (単元1. 2)
《学習目標》			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で療養する対象と家族を支援する在宅看護活動実践のための基本技術を習得する。 2. 療養者の観察と日常生活上の援助技術を習得する。 3. 在宅で治療の継続必要とする療養者と家族への援助技術を習得する。 			
授業内容			授業方法
【単元1】 在宅療養に特徴的な看護技術 1)療養者、介護者・家族、生活環境のアセスメントと援助 ①食事、排泄、清潔のアセスメントと援助 ②服薬管理のアセスメントと援助 ③感染症に対するアセスメントと援助 2)在宅における清潔援助、排泄援助の実際(演習)			看護師の実践を基盤に講義する。 1. テキストを活用した講義(2講) 2. 演習(2講)：基礎看護技術をふまえ、対象に応じた技術の応用を演習する。(寝返りができない対象のオムツ交換、陰部洗浄、足浴など) 一般病院で皮膚・排泄ケア認定看護師として、褥創管理、ストーマ、失禁等の排泄管理についてコンサルテーション及び研修などを企画し病院内のケアの質向上に関わる業務を行っている。その活動に基づいて、スキンケア、排泄について解説し、講義とモデル人形を用いた演習を行う。 ・訪問看護師から、実践事例を紹介しながら講義する。
【単元2】 医療処置のある療養者への援助 1)褥瘡・スキンケア 2)経管栄養法(経鼻、胃ろう、胃管挿入の演習) 3)間欠導尿・膀胱留置カテーテルの管理(導尿ビデオ視聴と演習) 4)排便困難な療養者への浣腸施行時の看護			
【単元3】 在宅で療養する対象の病態別看護 1)認知症の看護 2)ターミナル期にある療養者の看護 3)治療・処置をうけている療養者の援助 (在宅酸素、BIPAP、人工呼吸器、膀胱瘻・腎瘻)			
《テキスト》			
ナーシンググラフィカ 地域医療を支えるケア 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ			
《参考図書》			
写真でわかる訪問看護 第2版 ナーシンググラフィカ 在宅医療を支える技術			
《評価》			
評価は筆記試験にて行う(60点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
在宅看護各論Ⅲ (看護過程演習)	1 単位 15時間	2年後期	専任教員 看護師 川上 佐代子・和田 都
《学習目標》			
1. 退院支援の必要性と継続看護の意義について学ぶ。 2. 既習の知識・技術・態度を統合し、在宅での看護過程について学ぶ。 3. 在宅看護に必要な技術や療養指導の実際を学ぶ。			
授業内容		授業方法	
1. 継続看護と退院調整 (4 時間) 1) 継続看護 2) 退院支援のプロセス 退院調整チームと看護師の役割 3) 事例の退院支援を考える 脳梗塞、高齢者の事例を通して 2. 事例で学ぶ在宅看護過程の演習(12 時間) 1) ロールプレイ学習の導入 ① ロールプレイの意義、ロールプレイの進め方・留意点 「事前資料の事例を読み込み」 ② 課題提起「薬の飲み忘れがある」「尿漏れでこまっている。」 「体を動かす事がない。」「介護者の疲労が強いようだ。」 初回訪問で、セルフケアおよび療養指導に必要な情報を得る。 2) グループワーク ① 事例を読み込み課題に沿った看護問題を抽出する。 ② 看護目標・看護計画案を立てる。 ③ 脚本づくりをする。(セリフ、解説) ④ 役割を決める。(看護師 2、療養者1、介護者・家族2、解説者1、記録者1、タイムキーパー) 3) ロールプレイ 1～3講を使い、1G～4Gの演示 10 分。討議 10 分。 3. 認定レポート(20 分) グループワークのとおりくみ、ロールプレイの見学から学んだことを 20 分で記述し、提出する。		講義形式で進める ・個人ワーク、グループワークを取り入れる ・入院時スクリーニング票を活用し 退院計画の必要性を理解する。 ・DVD「療養の場の移行に伴う看護」視聴 ・グループは7人～8人で構成。 ・グループ討議で、脚本の大枠が出来て配役が決定したら、セリフと振付を実演し 20 分の発表に肉付けする。 ロールプレイ学習 ・演技者は訪問場面をリアルに想定し真剣に演じる。 ・ギャラリーは演技に対して客観的に意見を出し内容を深める交流をする。 ・レポート課題は当日提起。筆記用具のみ。	
《テキスト》			
ナーシンググラフィカ 地域医療を支えるケア			
《評価》			
認定は筆記試験 80 点、レポート 20 点で総合評価する(60点以上を合格とする)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
看護管理	1単位 30時間	3年後期	非常勤講師 単元1 認定看護管理者 須田 倫子、浜谷 綾子 単元2 救急看護認定看護師 岡村 紀子 専任教員 看護師 単元3 久保田 千香子 単元4 片岡 和江
《学習目標》			
1. 他職種との協働の中で看護師として看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。 2. 看護師として倫理的な判断をするための基礎的能力を養う。 3. 災害看護、国際看護の特徴と現状について学ぶ。			
		授業内容	授業方法
単元1 看護管理（授業時間10時間）		<ul style="list-style-type: none"> 1. 看護におけるマネジメント 2. 看護チーム及び保健医療福祉チームのコミュニケーションと調整の実際 3. 看護ケア提供システムと看護管理 4. 看護政策と看護制度 5. 看護サービスと診療報酬体系 6. 看護職の労働災害、職務上の危険とその対策 7. 看護職能団体 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般病院に認定看護管理者として勤務し、病院全体の看護管理及び看護の質向上の取り組みと人材育成などの実務経験に基づき、一般病院における認定看護管理者としての実践を踏まえて、看護の管理の概念と基礎知識、看護管理者の責務とマネジメントの実際を解説する。 ・一般病院の救急救命室(ER)において、救急看護認定看護師として他の専門職と連携し、重症度が高い搬送患者の救急看護、災害時の対応や実践を踏まえて、救急看護に必要な基礎知識の解説、トリアージの実際を演習を含めて解説する。 ・一般病院の看護師としての実践を基盤に、国際看護の動向や基礎知識を解説するとともに、国際看護について理解を深めるため、海外で看護にかかわる講師による講話も企画する。 ・一般病院の看護師としての実践を基盤に、臨床における看護師の倫理的葛藤や患者の人権擁護、意思決定支援を事例や状況を提示しながら、思考を深める。
単元2 災害時における看護（授業時間8時間）			
単元3 国際看護（授業時間6時間）			
単元4 看護倫理（授業時間6時間）			
<ul style="list-style-type: none"> 1. 看護者の基本的責任と行動指針「看護者の倫理綱領」 2. 患者の権利擁護 			
《テキスト》			
新体系 看護学全書 別巻 看護管理 看護研究 看護制度 (メヂカルフレンド社) 系統看護学講座 別巻 看護倫理 (医学書院) 国際看護は、系統看護学講座、専門分野 I 基礎看護学① 看護学概論を使用する			
《評価》			
評価は筆記試験にて行う (60点以上を合格とする) 試験配点(看護管理 30点、看護倫理 30点、災害時における看護 30点、国際看護 10点)			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
医療安全	1単位 15時間	3年次	教務主任 看護師 花田 未希子
《学習目標》			
1. 医療・看護事故の構造や特徴を知り、事故防止の考え方を理解する 2. 事故防止を意識して行動するための基礎的知識を習得する 3. 安全を守る専門職としての責任感と倫理観を高める機会とする			
授 業 内 容		授 業 方 法	
1. 医療・看護の安全における看護師の責任と役割 ① リスクマネジメント ② 医療事故の実態 ③ 国の医療安全対策 2. 医療・看護の法的責任 ① 看護業務と医行為 ② 注意義務（結果予見義務と結果回避義務） ③ 看護事故と法的責任 3. 医療・看護におけるヒューマンエラー ① ヒューマンエラーとは ② 医療・看護事故の構造と事故防止 4. エラーに関係ある人間の特性 ① 生理学的特性 ② 認知的特性 ③ 社会心理学的特性 5. 危険の種類別にみた医療安全対策 患者確認、与薬、インスリン製剤投与、輸液ポンプ 6. 看護事故要因の分析～転倒事件事例の分析を通して、事故の背後要因と対策について考える ・事故の構造・特徴 ・メディカルセーフターの分析手順 ・P-m SHELLモデルの活用 7. 看護ケアにおける事故防止 ～ 根拠を考える		1～3 講義は講義を中心に行う 患者誤認事件事例から医療安全について考える ＊医療機関における安全管理体制～リスクマネジメントの実際等については「看護管理」の講義内容に含む 4～7 講義は演習と講義で進める 演習① 事件事例の分析を各自で取り組み、グループ(4名)で交流。 演習② 事故防止の課題を考える 演習③ 実施してはいけない根拠を明確にする。	
《テキスト》			
看護学テキストNICE 医療安全 ～多職種でつくる患者安全をめざして（南江堂） 新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I（メヂカルフレンド社）			
《評価》			
筆記試験（70％）と 演習（30％）で評価する（60点以上を合格とする）			

科目名	単位数	授業時期	担当講師						
診療技術ゼミナール (看護の統合演習)	1単位 15時間	3年後期	専任教員 看護師 佐藤 幸子・佐藤 由香里・川上 佐代子 助産師 森下 千鶴						
<p>《学習目的》 卒業時の看護技術の到達状況および課題を明らかにし、臨床実践能力の向上を目指す。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護技術として学んできた看護技術を、患者に対して行うためのアセスメント能力を向上させる。 2. 模擬事例・状況設定に応じた方法の選択と、患者への配慮のもとに、診療援助技術を安全安楽に実践できる。 									
授 業 内 容 と 方 法									
<p>1. 課題テーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 胃ろう造設者の栄養注入時の管理 2) 輸液療法を受ける患者の管理 3) 自力喀痰が困難な患者の口腔内・気管内吸引 4) 膀胱留置カテーテルの挿入と管理 <p>2. 学習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 4月導入からⅠ～Ⅲ期に分かれてグループで取り組む。(各期については以下を参照する) 2) 各グループのゼミナール委員が中心となり学習を進める。また、定期的にゼミナール委員会を持ち学習状況を交流する。(ゼミナール委員会では、委員長と副委員長を置く) 3) 指定された1課題テーマについて実践し、評価を受ける。 <p>《Ⅰ期～実習前ゼミナール》</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ゼミナール: Aクラス 月 日 / Bクラス 月 日 ②グループで話し合い、取り組む課題テーマを決める。 ③課題テーマ(設定事例も含む)に関する基礎学習及び事前練習を行う。 ④課題テーマに必要な学習内容と方法についてまとめ、<u>原稿を作成</u>する。(10 ページ程度) ⑤ゼミナールでは、学習内容と事例に基づいた配役で演示を行い、交流する。 ⑥発表時間は①グループ 60 分以内、質疑応答 30 分。 <p>《Ⅱ期～実習期間中》</p> <ol style="list-style-type: none"> ①Ⅰ期ゼミナール後から10月までに課題テーマ3つの学習を終えるよう学習計画を立案する。 ②夏季休暇中をめぐり、原理原則に基づいて事例に合わせた技術カード作成する。 ③ゼミナール委員会で、学習内容や学習計画について交流する。 ④実習期間中に担当事例以外でも、機会があれば技術の見学や実践を積極的に行う。 ⑤統合実習期間の演習日に、残り1課題テーマに取り組む、また練習を重ねる。 <p>《Ⅲ期～国家試験後》</p> <ol style="list-style-type: none"> ①国家試験後、4課題について練習を重ねる。 ②診療援助技術ゼミナール当日、個人の課題テーマを提示する。 ③課題テーマごとのブースで実践する。(1人20分程度) ④評価 ～課題テーマごとの<u>評価の視点</u>に基づき採点し、不合格者は再度評価を受ける。 <p>3. 評価の視点</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">*事例への説明、理解を得て実施できる。</td> <td style="width: 50%;">*実施方法の根拠が明確である</td> </tr> <tr> <td>*事例の状況を確認し実施できる。</td> <td>*事例の安全安楽に配慮し、実施できる。</td> </tr> <tr> <td>*事例の状況にあった方法で実施できる。</td> <td></td> </tr> </table>				*事例への説明、理解を得て実施できる。	*実施方法の根拠が明確である	*事例の状況を確認し実施できる。	*事例の安全安楽に配慮し、実施できる。	*事例の状況にあった方法で実施できる。	
*事例への説明、理解を得て実施できる。	*実施方法の根拠が明確である								
*事例の状況を確認し実施できる。	*事例の安全安楽に配慮し、実施できる。								
*事例の状況にあった方法で実施できる。									
<p>《評価》</p> <p>実技試験は、評価表にて採点しA、B段階を合格とする</p> <p>A: 目標に到達している、B: 指導を受けて目標に到達した C: 指導を受けても目標に到達できない</p>									

科目名	単位数	授業時期	担当講師
在宅看護論実習	2単位 90時間	3年次	専任教員 看護師 川上 佐代子、和田 都
<p>1. 実習目的 病気や障害と向き合い地域・在宅で療養している対象とその家族の願いをとらえ基本的人権を護る在宅看護の役割を学ぶ。</p> <p>2. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域・在宅で疾病や障害を持ちながら生活している対象を理解する。 2) 地域・在宅で療養する対象と家族の願いをとらえる。 3) 地域・在宅で療養する対象と家族を支援する看護計画を立案し、指導のもと実践する。 4) 在宅療養を支援する継続看護の役割を理解する。 5) 対象が地域・在宅で療養を続けるための医療・福祉・介護における社会資源や多職種連携について理解する。 			
授 業 内 容 と 方 法			
<p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 訪問看護ステーション1施設に2～3人の配置となる。 ② 実習は、実習計画表に基づいて、看護職または他職種(介護職、リハビリ技師等)と同行訪問する。 ③ 受け持ち対象の同意を得て事例が決定され、指導者の指導を受け家庭訪問を行う。 ④ 記録物(看護・介護記録)から対象の基本情報、在宅療養にいたる経過などの情報収集を行い、実習目標、観察ポイント、体験したい技術を明らかにして行動計画を立て訪問する。 ⑤ 対象の個別のケアプランについてケアマネジャーから説明を受ける。 ⑥ 収集した情報をアセスメントし、看護計画を立案してチームと共に実践する。 ⑦ 医療機関との調整会議、通所サービス、社会資源の活用、介護の実際を見学する。 ⑧ 実習で関わる全ての対象者や家族、施設、職員の個人情報守秘義務を理解して行動する。 <p>老人保健福祉介護施設見学実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 見学目的 介護保険制度における施設介護、居宅介護の実際を知り、高齢者が安心して生活できることを支援する看護の役割と多職種の連携の実際を学ぶ。 2. 実習内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 見学施設の概要、役割、施設入居の高齢者の現状、課題について説明を受ける。 2) 入居者との関わりやお話しを通し、その思いを知る。 3) 介護職員とともに、介護にかかわり、生活障害に対する介護の実際について知る。 <p>《評価》 下記のC評価以上を合格とする A: (80点以上) B: (70～79点) C: (60～69点) D: (60点未満)</p>			

科目名	単位数	授業時期	担当講師
統合実習	2単位 90時間	3年後期	専任教員 看護師 佐藤 幸子、佐藤 由香里
<p>1. 実習目的 既習の知識、技術、態度を統合し、対象の基本的な人権を護る看護の役割を学び、看護実践力を身につける。</p> <p>2. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護管理および、保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める。 2) 対象を取り巻く保健・医療・福祉の役割や連携の実際を知り、その中での看護の役割を学ぶ。 3) 複数患者の看護の優先順位を考えることができる。 4) 既習の知識、技術、態度を統合し、看護実践力を高める。 5) 夜間の患者の状態と看護活動を理解する。 6) 外来部門の看護の実際を通して、継続看護の役割を学ぶ。 7) 診療の補助に関わる援助技術を実践的に学び、看護実践能力の向上をはかる。 8) 将来の看護師としての自己の課題を明確にする。 			
授 業 内 容 と 方 法			
<p>実習方法 看護管理実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習目標 看護管理を理解することより、保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める。 2) 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> ① 師長室より各実習病院における看護管理について説明を受ける。 ② 病棟師長または主任より病棟管理の役割と業務や看護チーム内の連携について説明を受ける。 <p>複数受持ち実習</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ペアまたは一人で老年Ⅱ期実習担当事例を受け持つ看護師にシャドー研修する。 ② 担当事例の病態や治療について不明な点は、臨床指導者より臨床講義を受ける。(または質問し情報を得る) ③ 行動計画用紙には、受け持ち2事例の状態とスケジュールを考え、目的を明確にした観察や援助内容を具体的に記載する。 ④ 病棟の看護計画を参考に行動計画を考える。 <p>夜間実習</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 複数受け持ち実習の間に1日、全員が同日に実習を行う。 ② 14:00 から学生控え室で準備を行い、15:00 に病棟に入る。 ③ 複数受け持ち実習の担当事例について、ペアまたは一人で実習する。 ④ 夜間の患者の状態を理解するために、バイタルサインなど必要な観察を行う。 ⑤ 夜間の入院生活について援助や観察を行う。 ⑥ 20:00 に実習が終了したことを夜勤看護師に告げ、グループごと速やかに帰宅する。 <p>外来見学実習</p>			
<p>《評価》 下記のC評価以上を合格とする A: (80点以上) B: (70～79点) C: (60～69点) D: (60点未満)</p>			